



江戸名所圖會

十五

和
三
ル 4
5105
15



門ル4
號5105
卷115



根津權現社 上野より五町とありと隣て乾の方よりあり

祭神 素盞烏尊 伊弉諾大神 相殿 左山王權現 伊弉諾大神

当社境内始ハ 甲府公 伊弉諾の地あり 根津權現ハ

大樹の文昭と 伊弉諾土神よりして 伊弉諾系述あり 々々故後ハ右の伊弉

の地城賜り宝永年中新ニ當社を伊弉諾宮ありて結構修む 隨身

ハ掛る根津大權現の額ハ大明院宮ニ辨法親王の宮蹟あり 舊地ハ千

駘本坂の上元根津といふところあり 祭禮ハ隔年 九月廿二日あり

觀音堂 奉社の左岡山のうへあり 俗陽清水寺の換よりて 執尊千手大悲の像ハ慈覺大師の他といふ

当社境内ハ假山水泉等とて草本れ花四季と逐て絶々實ニ遊觀

の地あり 殊ニ門前ハ貸食店齋とありて清人と懇ハ一々 酌哥の

聲同新あり

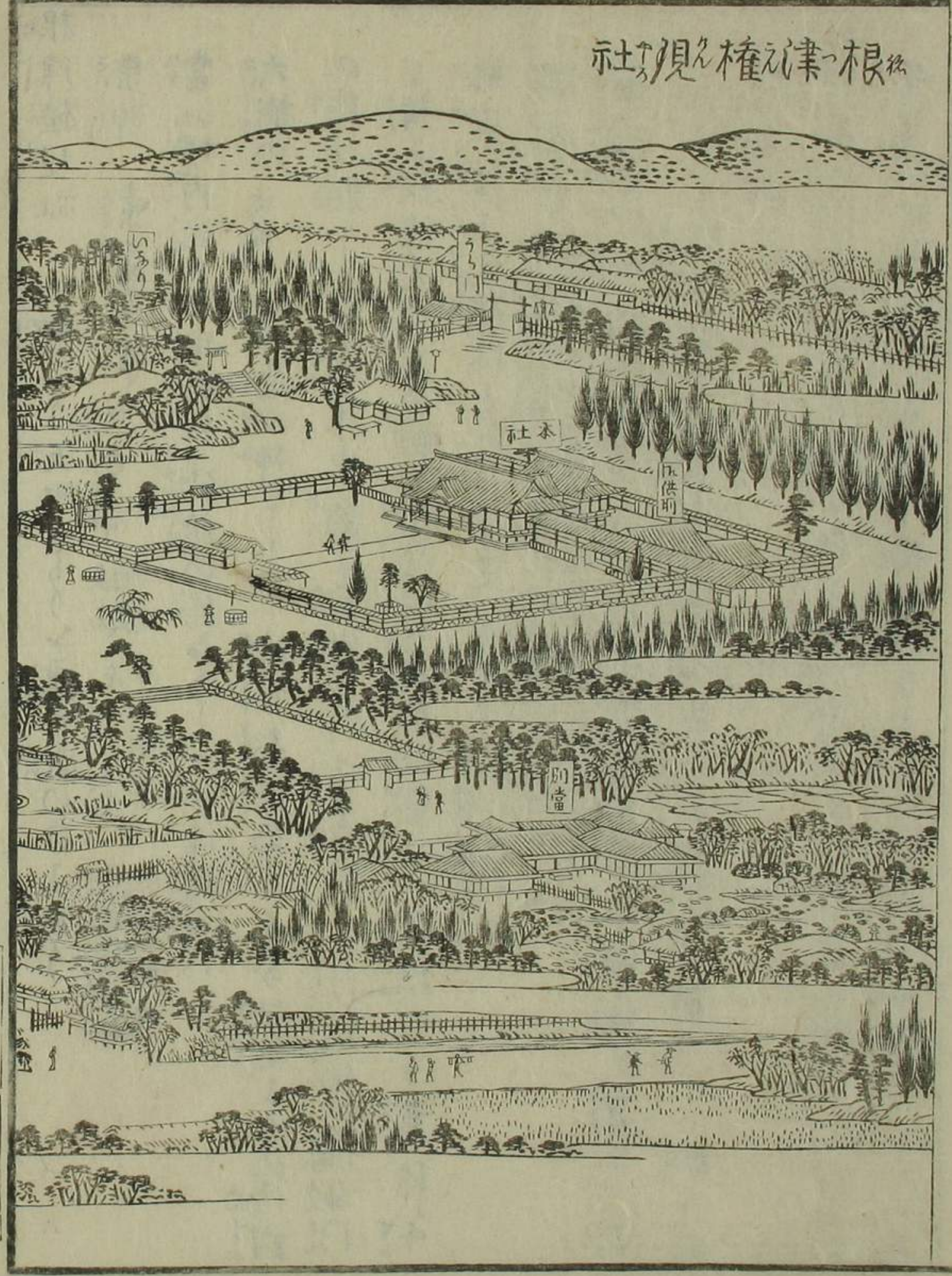
普賢山法住寺 谷中三崎よりあり 浄土宗よりして奉尊ハ阿彌陀如來と

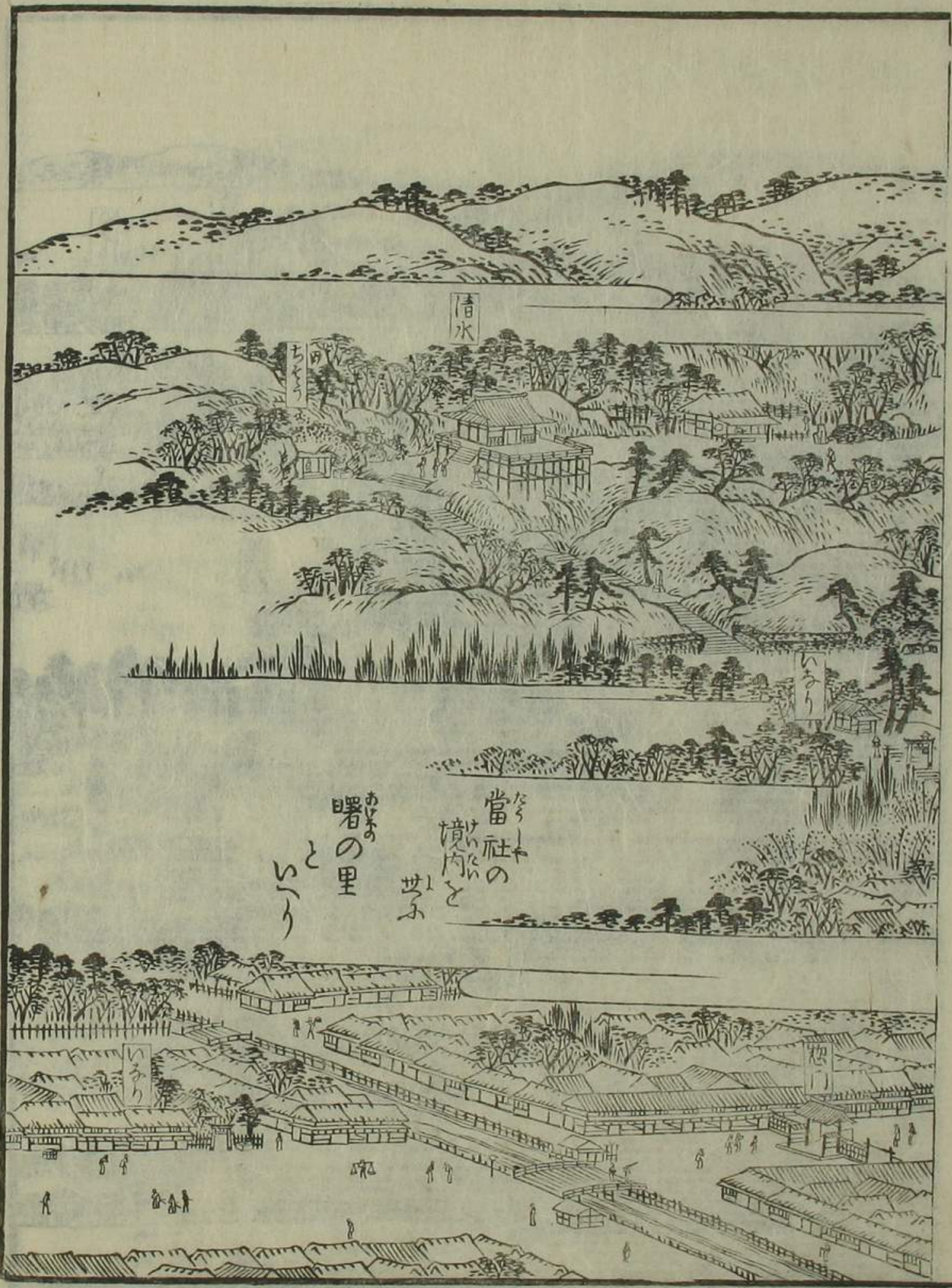
母置及兎山ハ幡隨意院ヲ碩和尚あり 其頃一狐の高徳よりして貴

昭和41年12月20日寄
原安三郎氏贈



根津權見社





賤の信仰女がら以宝曆年中當寺と草創に其砌貴後男女と擇つ以
 土砂と運小車一貫毎に十念と授くこゝを以て老若と厭は
 日々群集し不日成就せり此地ハ清浄無塵の佛界なりて六時
 禮讚の聲ハ杳々と共寂々なり

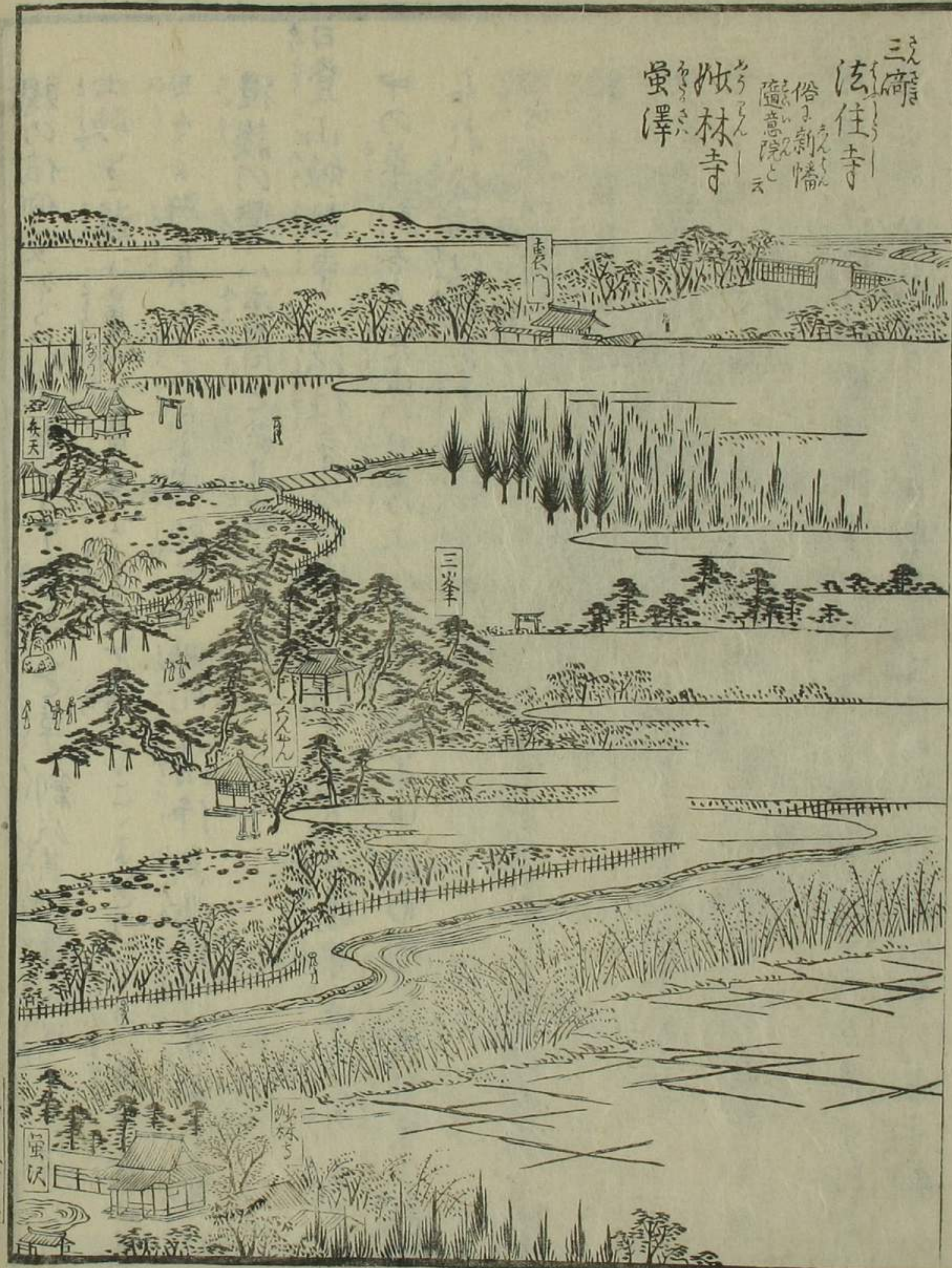
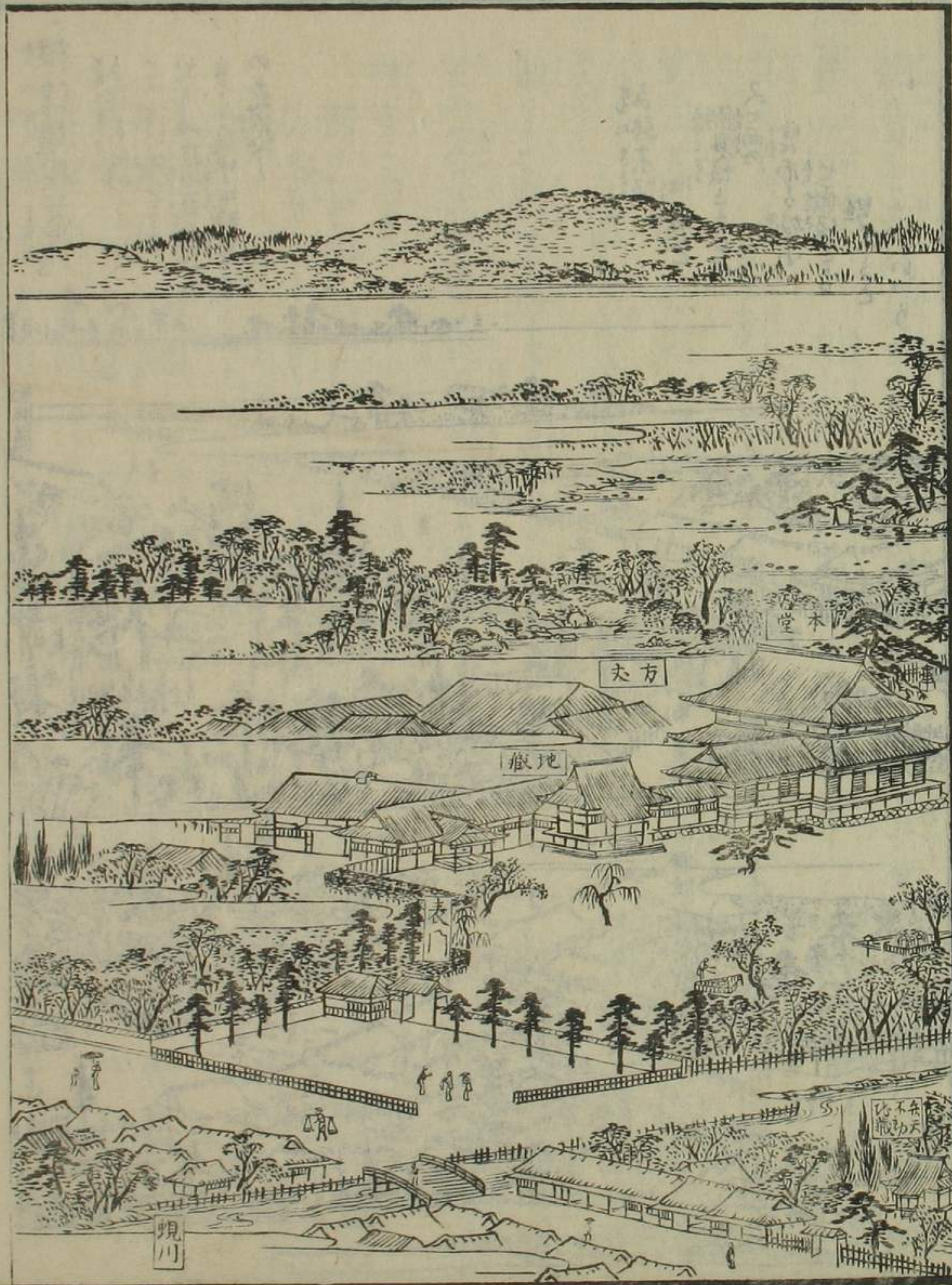
日登山妙林寺 法住寺の西小川を隔てあり日蓮宗よりて天文年中

中の草創あり元山ハ日秀上人とて正徳年中故ありて天台宗に改め
 られ後海法印と中興元山と云

田中辨財天士 昔ハ田の暇道の草堂に安置ありて弘安六年に内海何某始て此社と
 顧地藏尊 弘法大師の作光入法師
 靈験不動尊 感得の靈像あり
 延享三年七月八日淺草川より出現せし像あり許長一丈七寸七分

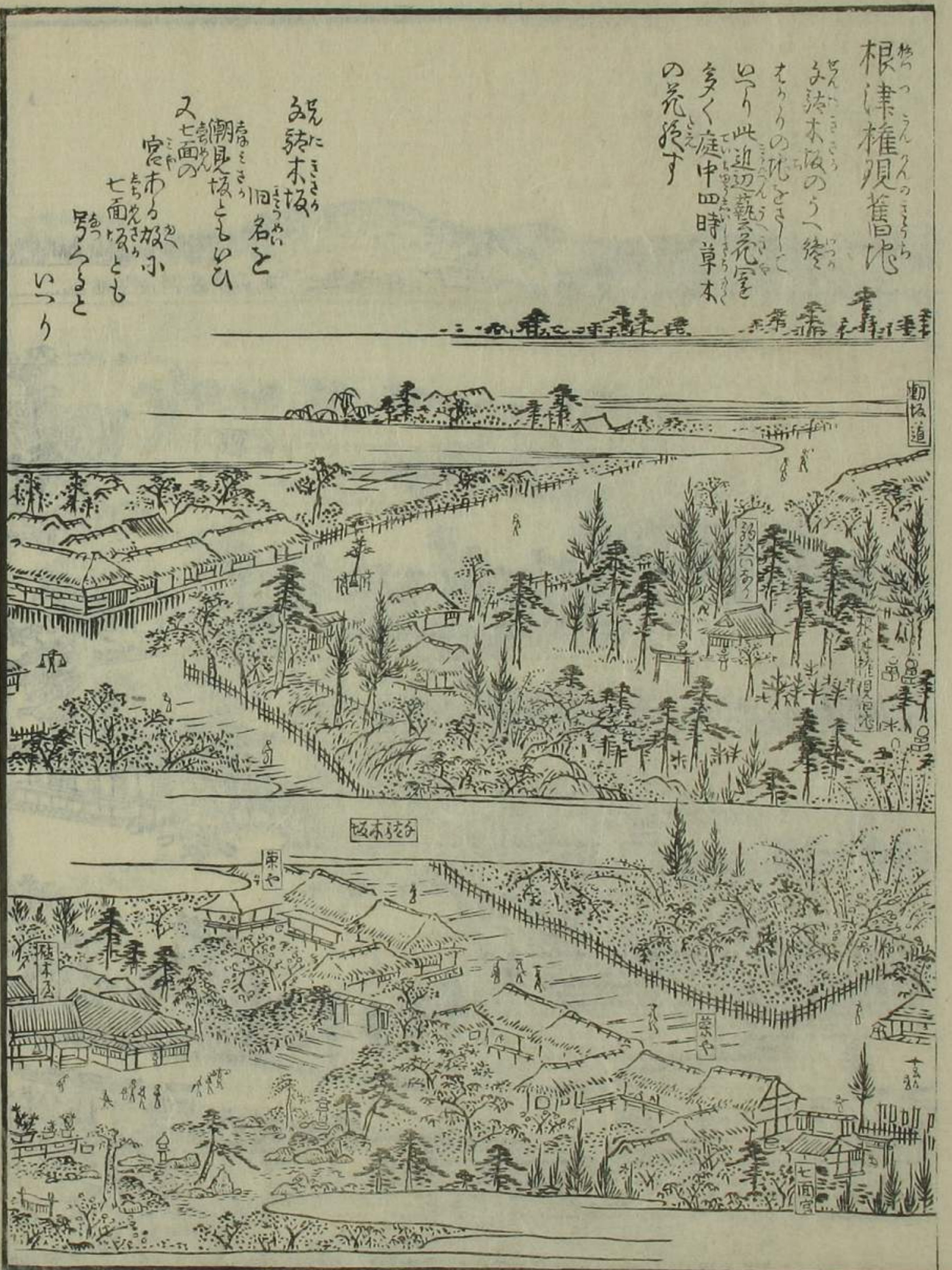
讀曰金利 石堅 神惠 佛救 投福 興德 靈験 不動
 大同 二丁 亥四月 空海

大觀音 千駝木七軒寺町光源寺といへる浄宗の寺内みあり和力に
 長谷寺の寫し一十二面觀音の立像ハ長一丈六寸あり又同堂内み千駝の



根津権現舊地
 此法本所のうへ終
 たり此の地とす
 多し庭中四時草木
 の花絶す

又七面の
 宮市の故小
 七面はとも
 号するとい
 たり



観音と安貞貞亨年中江府の高人丸吉兵衛ありは是と建立
 大覽山浄心寺 丸山町あり日蓮宗より太田資高の妻と浄

四府臺よて合戦の時資高とのれり妻の親あり一太田下野守
 小田原と渡り合戦は資高と里見義弘と

散して後妻此奉と聞大は歎き葬禮終んころよいとあは後
 父の菩提の爲は武又神田は浄心寺と建立はと云

神田はあり一と小石川より川され後復今の地より川さか

按るは寺に右田資高の室は小糸氏綱の女よりて康資の母あり依康資母後の
 ため天文十九年當寺と戸平川は草創のといり後康資の母は天文十九年とあれ
 寺説を以て是と云くを遊て抄評すと云り當寺の傳鐘今ハ七ひたり後深草元政
 あり草山集は出る故よと云に峯

浄心寺鐘銘並序
 古者論竹創守文二者之難矣盖無州創莫成守文
 無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号
 大覺開基祖曰日成乃以天文十九年創之而九世
 祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大



駒込
大観音

揚再興之力蓋淨因野感未發佛殿方丈及厨庫書
 院而乎新成矣夫極智所照之如
 所觀之古府內之遠近而不覺
 此也昔之日開地基今城之外再興
 也且所以今日之開地基今城之外再興
 古之所謂有竹地易日之再興
 有鐘成人焉有竹地易日之再興
 矣鐘成人焉有竹地易日之再興
 淨心為真銘於斯處焉以固位
 以名山與寺因於斯處焉以固位
 如常山與寺因於斯處焉以固位
 斯備晚成土器音聲作佛事
 善武東漸土音聲作佛事

目赤不動堂 駒込凌香町あり
 供奉せし不動の尊像屢靈煥あるは仍て其威靈と恐れ別は今
 像以彫刻して彼像と暖籠とす則赤目不動と号し此取は一宇と建
 立せり 今取は一宇と建
 のありし後年終は目黒目白は對して目赤と改むるとそ
 同地あり

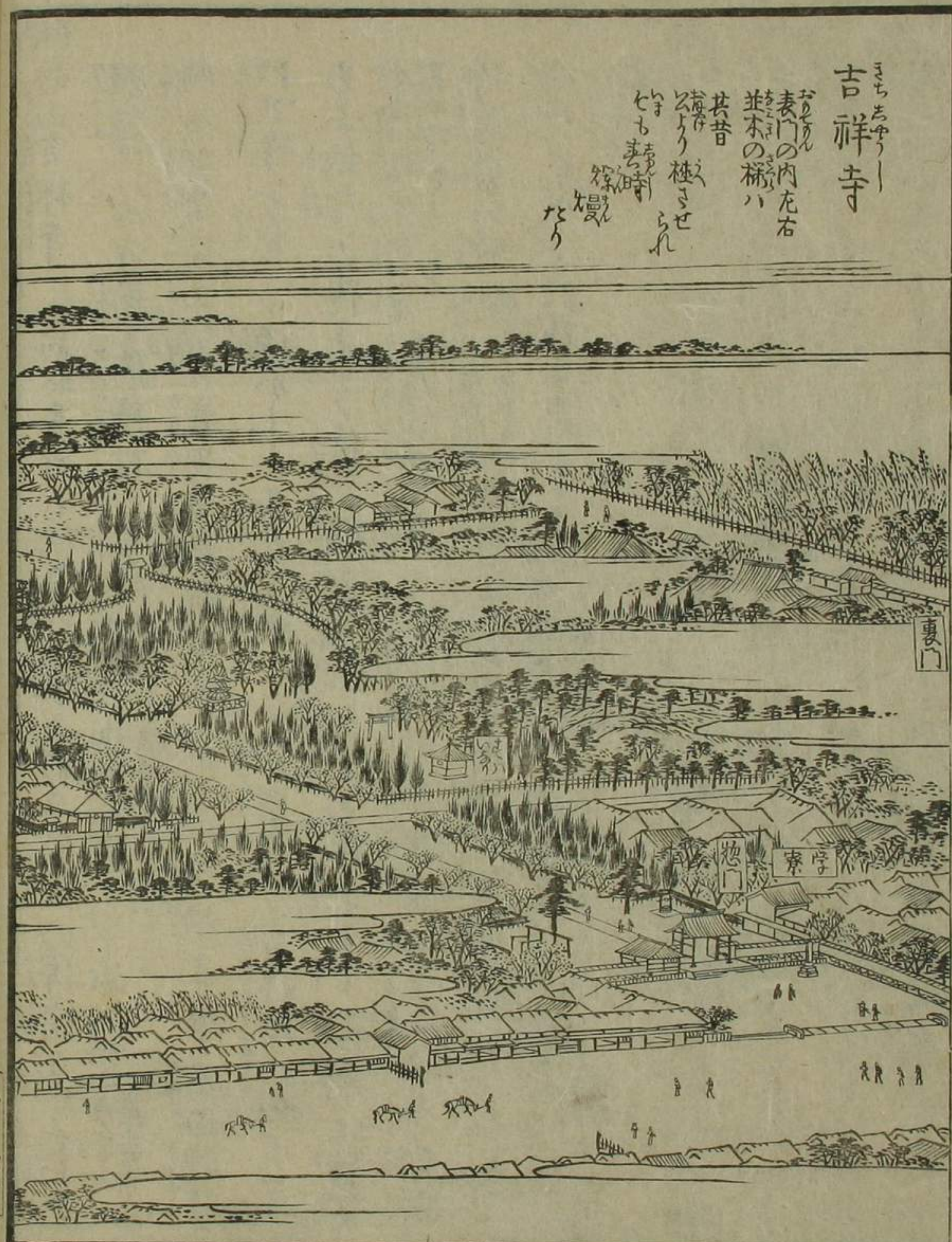
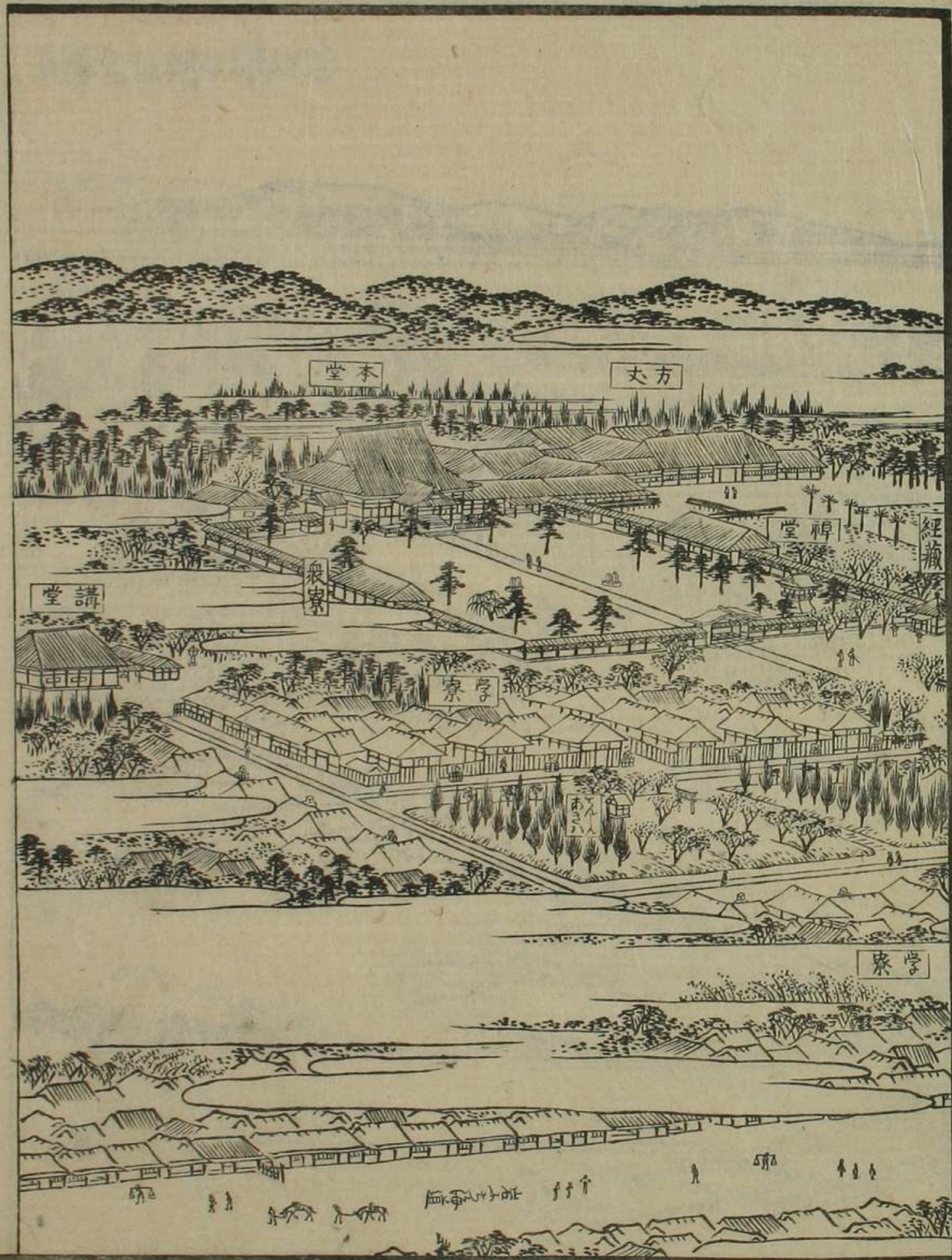
丸山まるやま
浄心寺じやうしんじ



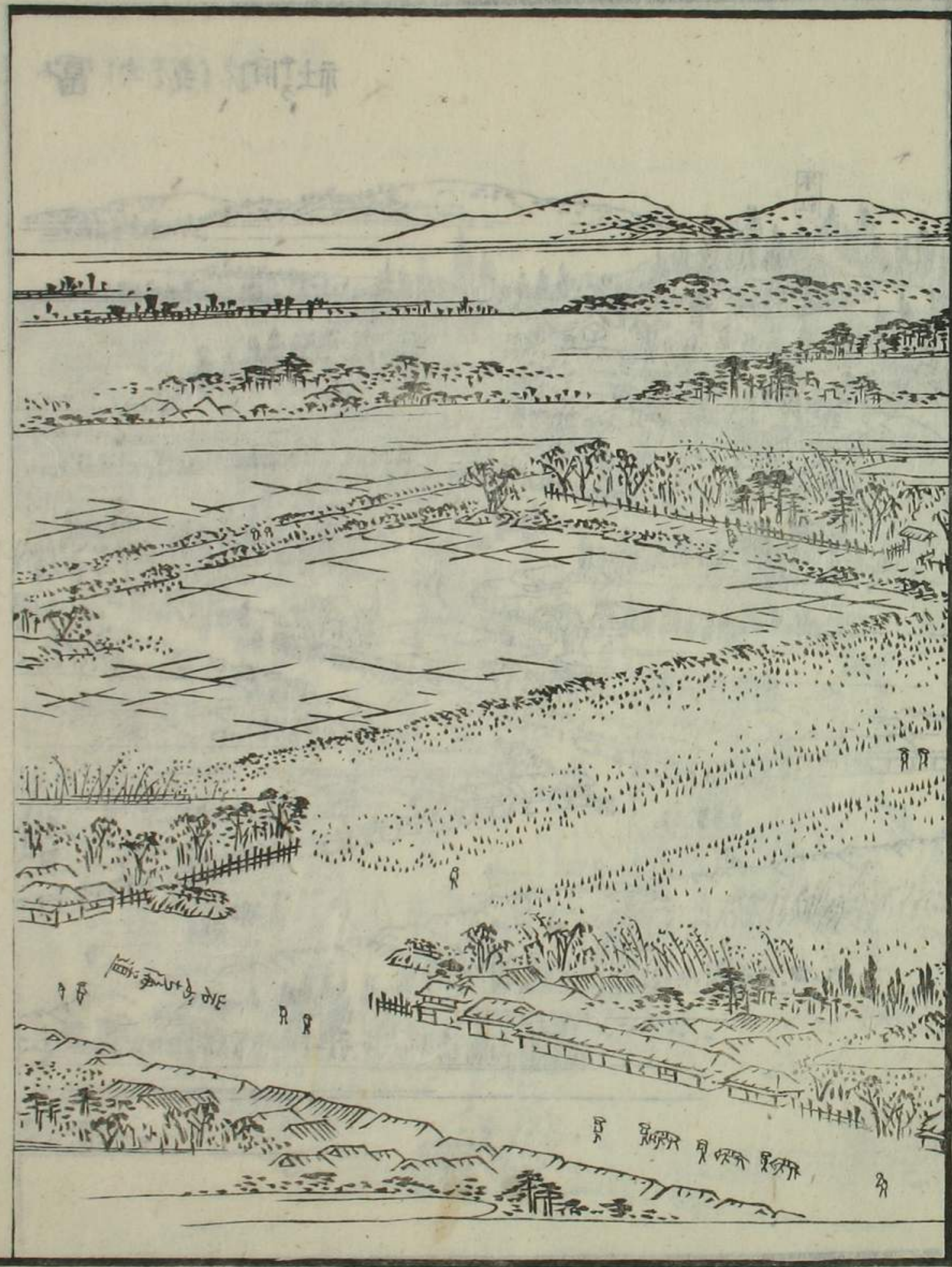
諏訪山吉祥寺すわいさんじやうじやうじ

同取壹所と有り北の方より曹洞の禪宗より江戸
檀林の一あり因て稱檀林と号し諏訪明神の敷地を以て諏訪山と号す 奉尊ハ
釋迦如來冥山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長祿年中右田持資
江戸殊と管一頃かこま井と堀一は土中より吉祥増上の文云々
あふ銅印と得たり依古瑞ありとて二宇と建直は吉祥庵と號く
其後北条幕下遠少丹波守中興ハ天正年中所味
所造営の時五代目用山和尚 神田の臺に地を賜ひ寺願等を附せられ遂に
明暦三年今此地よりつゞく
水道橋、當寺神田の臺あり一頃の表門の地カ
寺橋と記せり

駒込神明宮 同野二下より北の方よりあり社傳は云文治五年右大將
頼朝公奥羽征伐の時靈夢の事あり其朝此ありは社地と
求め索り一は一松株の枝は大麻のぐれるあり公是と拜しゆは是靈
夢の應ありとて直小其地は神明宮と勸請以と云 其後多くは星

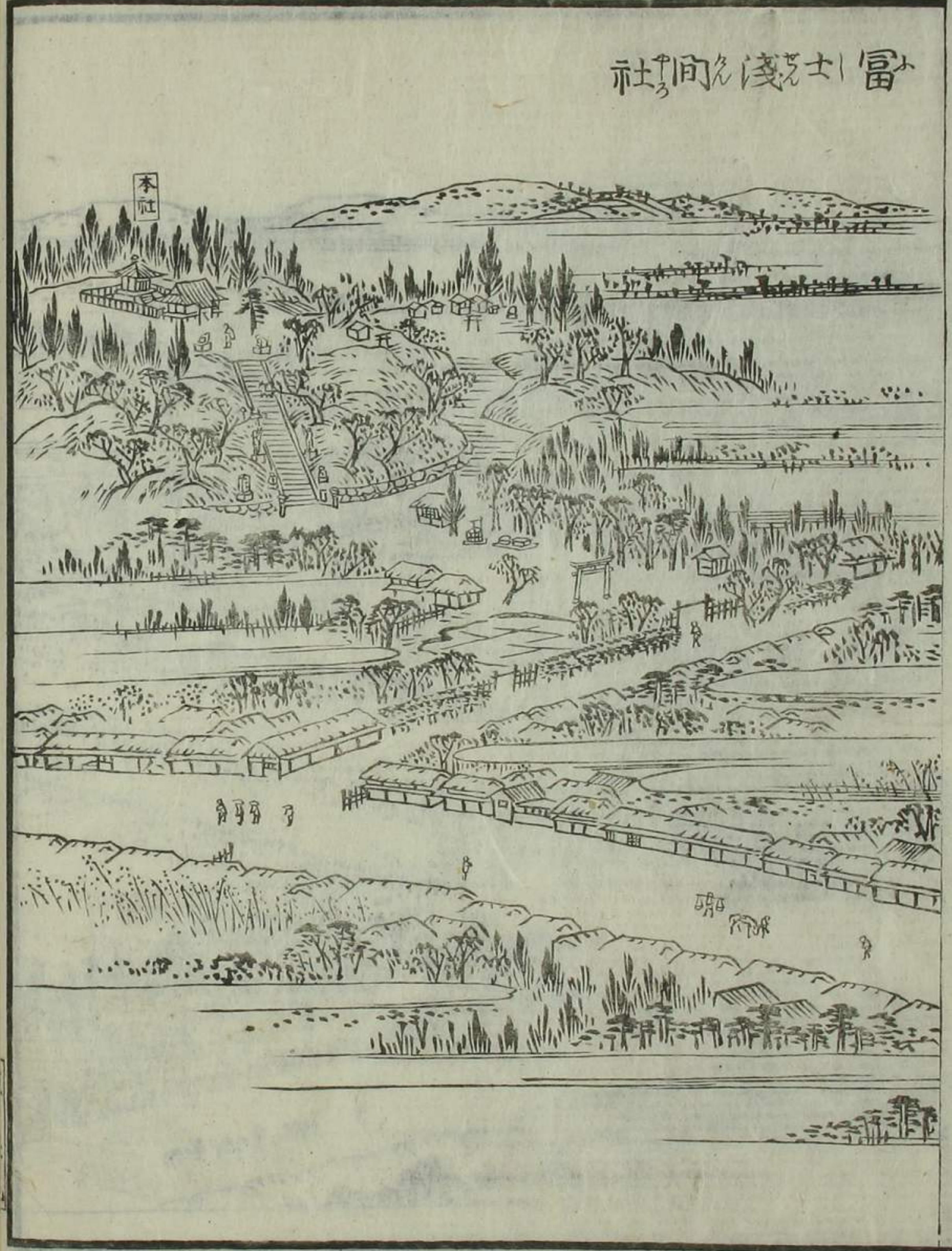


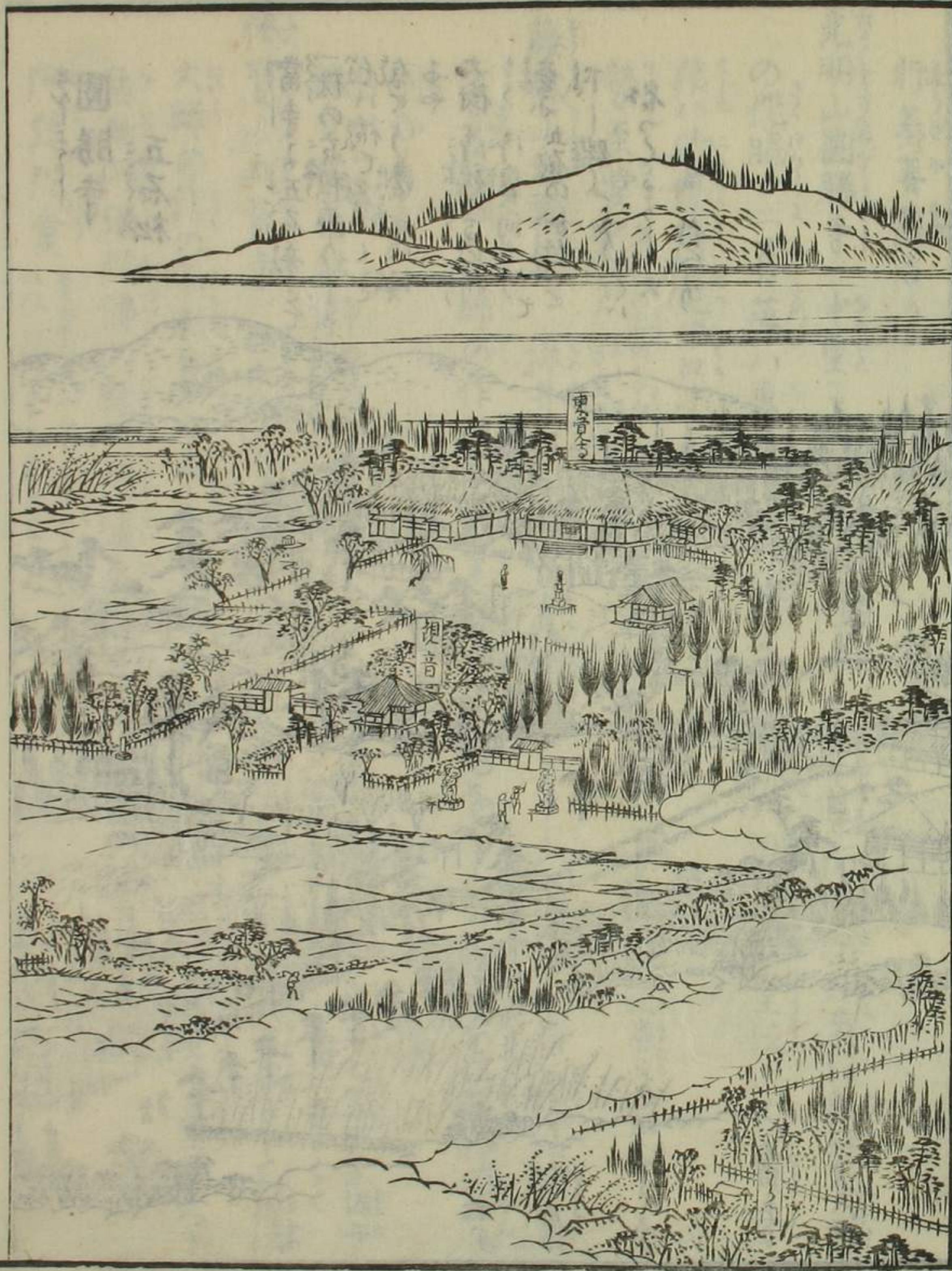
吉祥寺
 表門の内左右
 並木の橋ハ
 其昔
 公より極させ
 七も時
 燭
 たり



駒込三達神宮明宮







宮幡の煙田



與樂寺
六向淨陀
四尊
番目

堂本

圓勝寺
五石松

當寺に五石松あり一
株の古松あり一
女ハ樹て女のこ
故せり慶長の頃
大樹 寺放参の折
寺裏向ありて
李ハ 此衣の知行と
下ハ 躰ハ
谷つくさよ云
はり



行基菩薩あり

光明山圓勝寺 中里あり浄土宗より奉尊阿彌陀如来ハ慈覺大師
の代脇士ニ菩薩ハ惠心僧都の作り宛心ハ深蓮社聖法上人當寺
始ハ浄珠内竜の口あり一とそ
勢至堂 奉堂の右の五石の上あり三尊の淨陀佛とあは俱小佛ニ春日の他あり今

藤林山西福寺

と女ハ徳一大師の作り當寺ハ狭女の地ありといともを殊勝の梵
刹あり

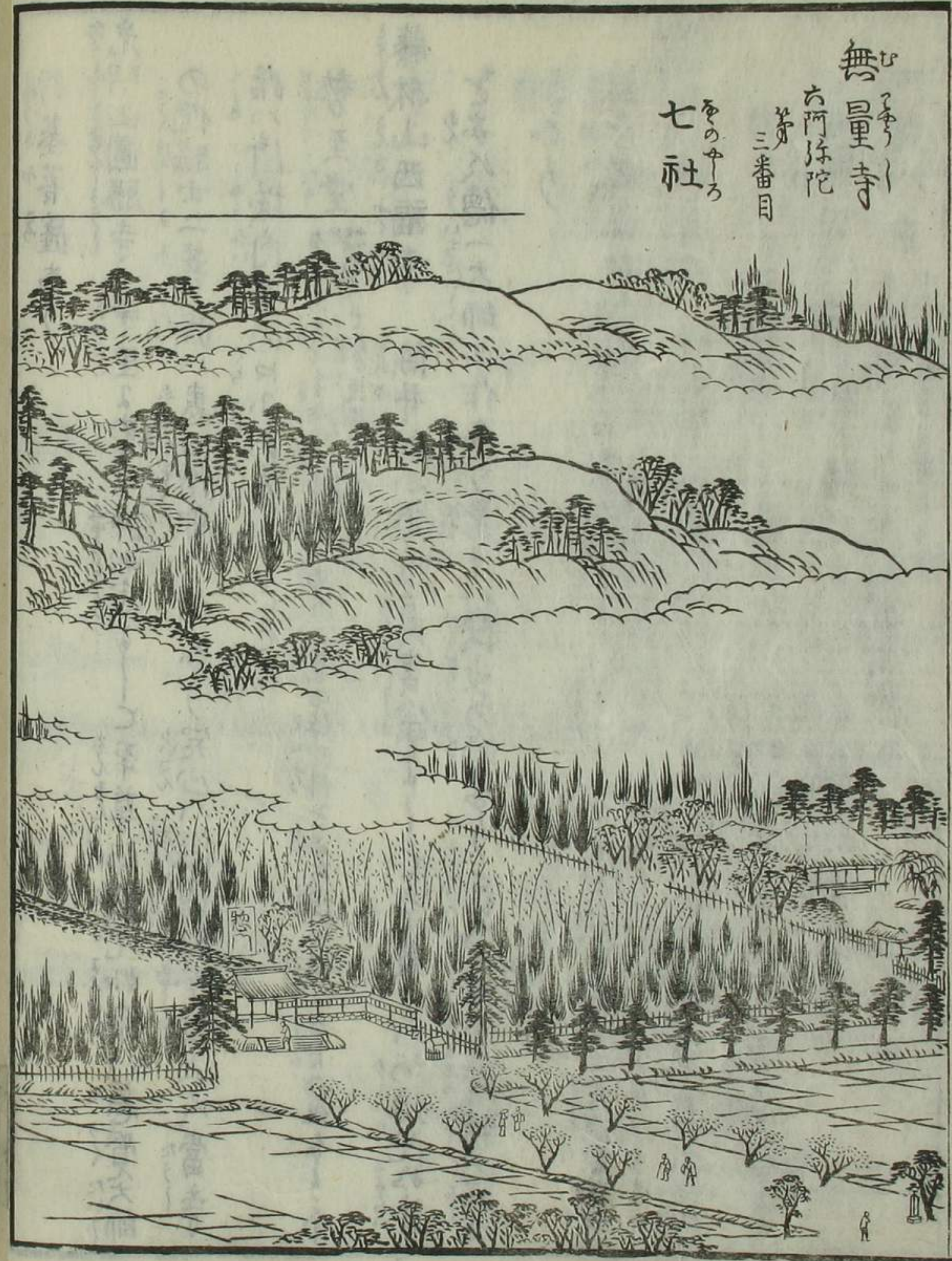
漆井稻荷社

佛寶山無量寺 西光院と号以同死北の西原ふあり真言宗より奉法
大師の作の不動尊と奉尊とい宛心ハ行基菩薩あり奉堂小と

南無阿彌陀佛の額ハ幡随意院了願和尚の筆あり

阿弥陀堂

奉堂の右小あり奉尊ハ行基菩薩の依
六阿弥陀堂三番目あり



神陀山昌林寺 同所為の方より曹洞の禪宗より本尊未本觀世音

菩薩ハ冥山行基菩薩の作り 往古六阿陀院彫刻の折々未本を以て作りたるひいとそびるハ神陀洛壽院と號其後久く荒廢

小とよみ此は應永年中祥林といへる僧中良勢より 後又宗最和尙に昌林寺と號し 號以同十八年鎌倉持氏との母堂深く是成信一堂

宇と彼骨あり又文明の頃右回道灌二十余丁の畝田を寄附其後大永年間の兵火は罹りて堂塔悉く炎焼す今ハいふ一の供

平塚明神社 平塚村小あり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟與

カ前前後十二年の戦終凱陣のころ此地は逗留ありて城主豊島氏某 或野嶋太帝 又鎧一領并小守奉尊十一面觀音 今津宮寺小安置

と賜ふ其後元永年中豊島氏城内清浄の地と擇びて彼鎧と塚は後ホ収め 塚の形高ゆるを以て平塚と 城の鎮守とす且社政營じて

三連枝の像茂安 平塚三所明神と号は 新羅三所義光

是義家兄弟の武功と欽崇因武運と祈らん為なりと云 別當と平塚山珠寔寺といひ安樂院と号は 津宮寺の末代ハ 卒地阿弥陀

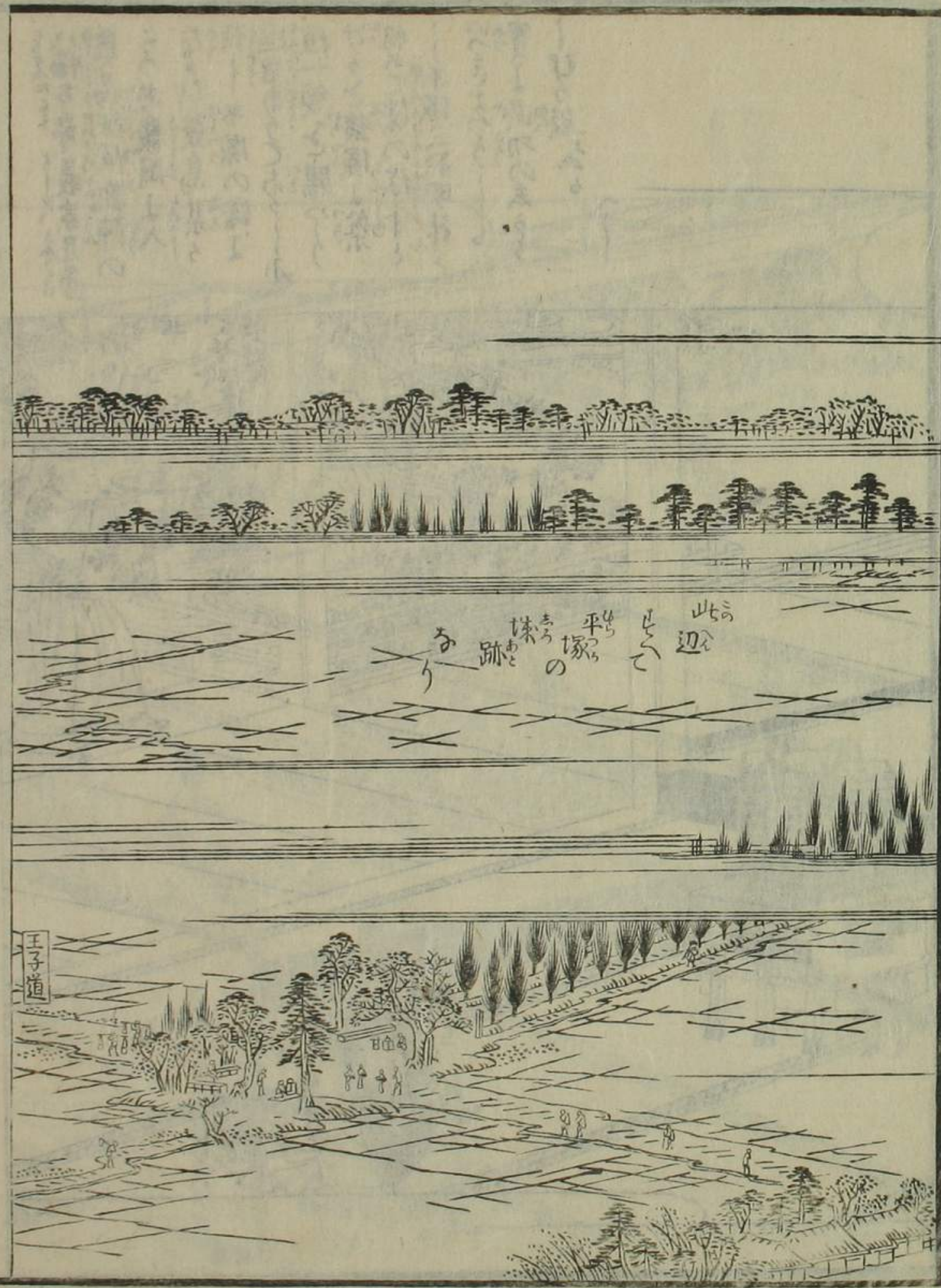
如來と安す 赤檀佛毘首羯磨の天の 昔筑紫安樂寺の僧田圃修行の砌 此像とて小安置せしとそ

白鬚明神社 同所畑の中よりあり祭神ハ猿田彦命より豊島氏

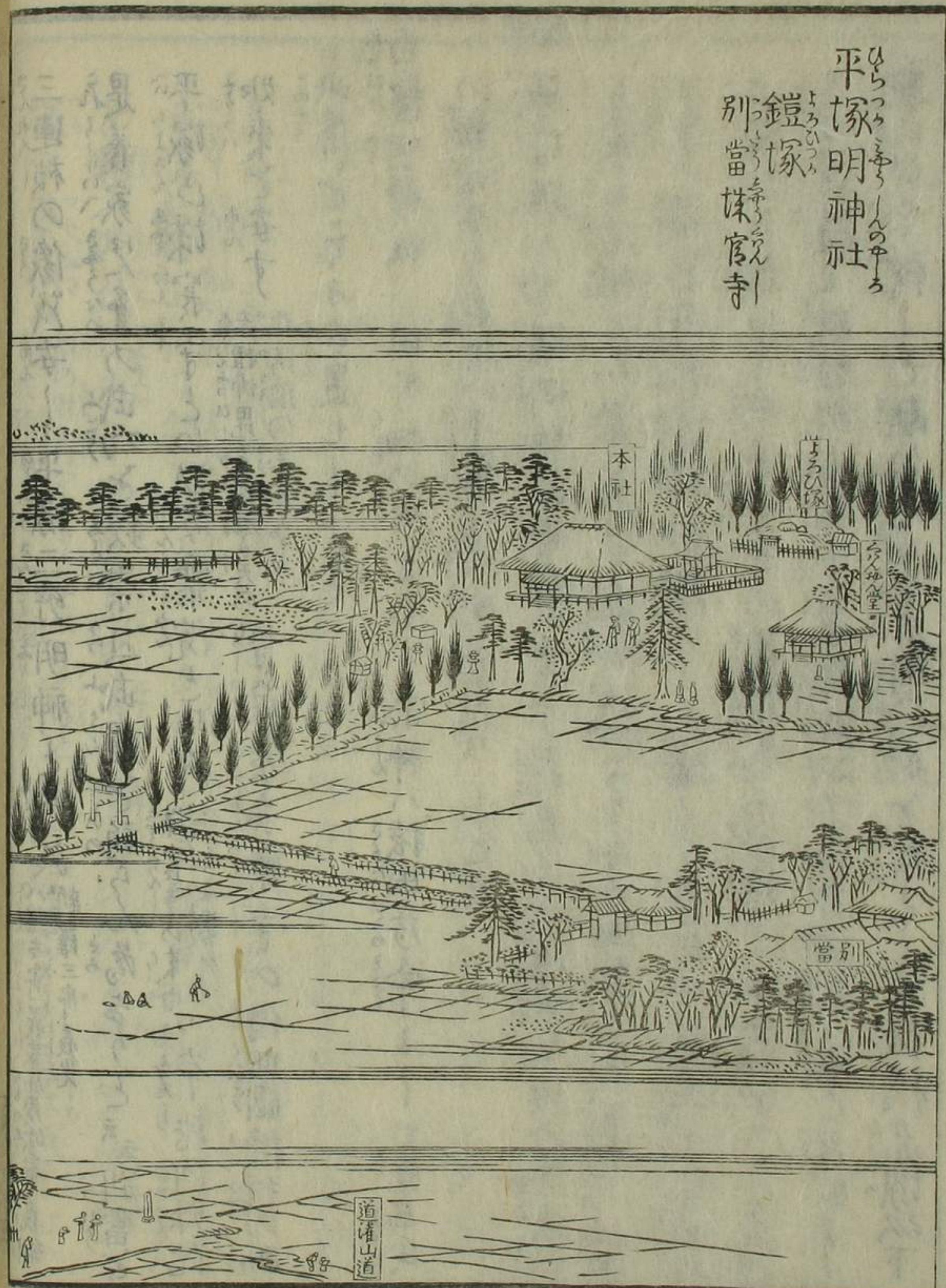
の勸請あり往古ハ平塚の株中ふありしとそ

平塚株跡 平塚明神のありより飛鳥山の辺迄といふ鎌倉大

草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て出豊嶋平右衛門尉ハ 平塚の城を取巻株外を放火して歸りたる外小豊島足勘解由 左衛門と頼ける同石神井の株練馬の両株より出攻ありりハ 右回道灌上枚形部少輔千葉胤以下江古田沼代と云不ハ 馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と始として板橋赤塚以下

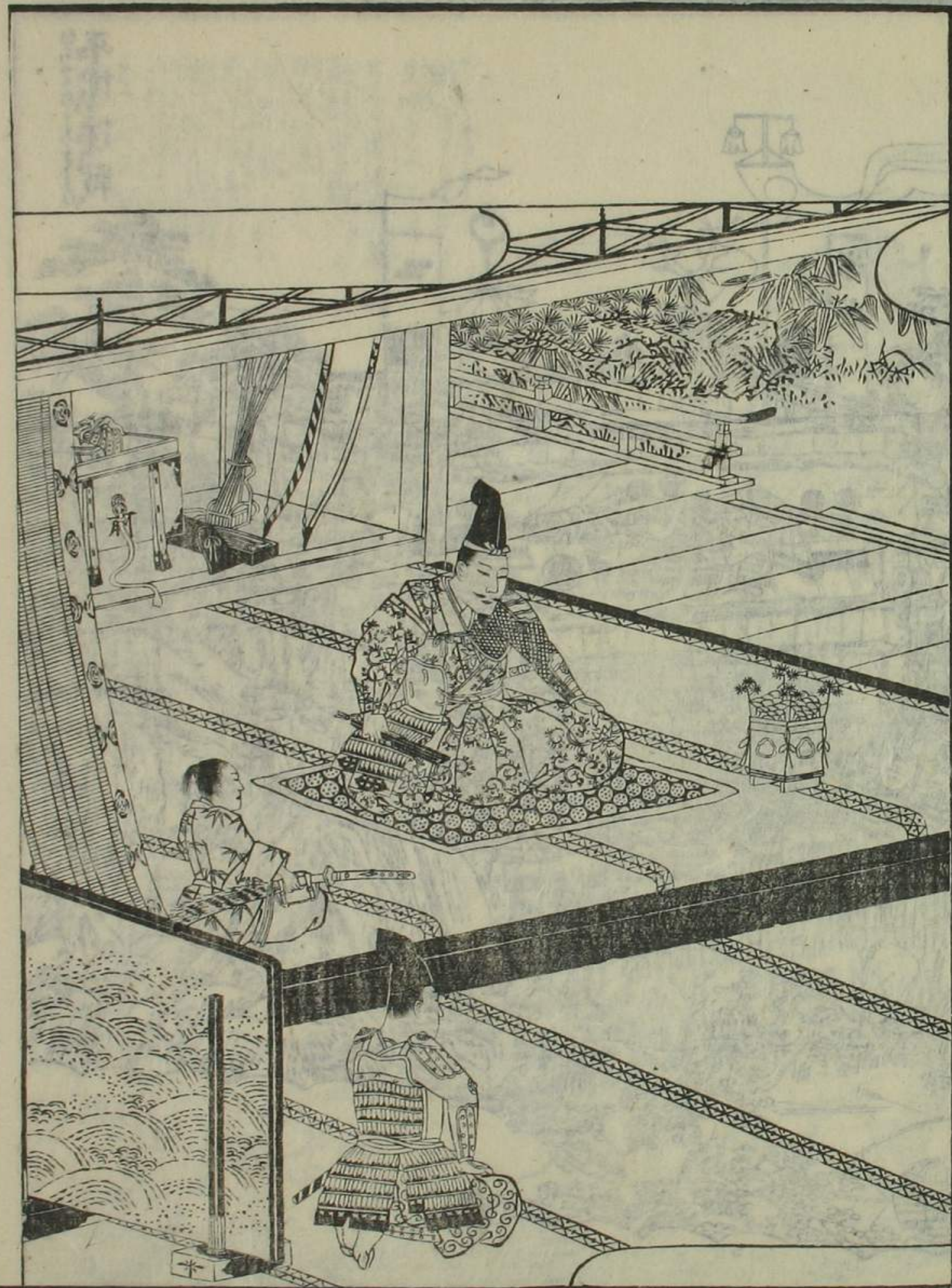


此の
迎
平塚の
跡
か

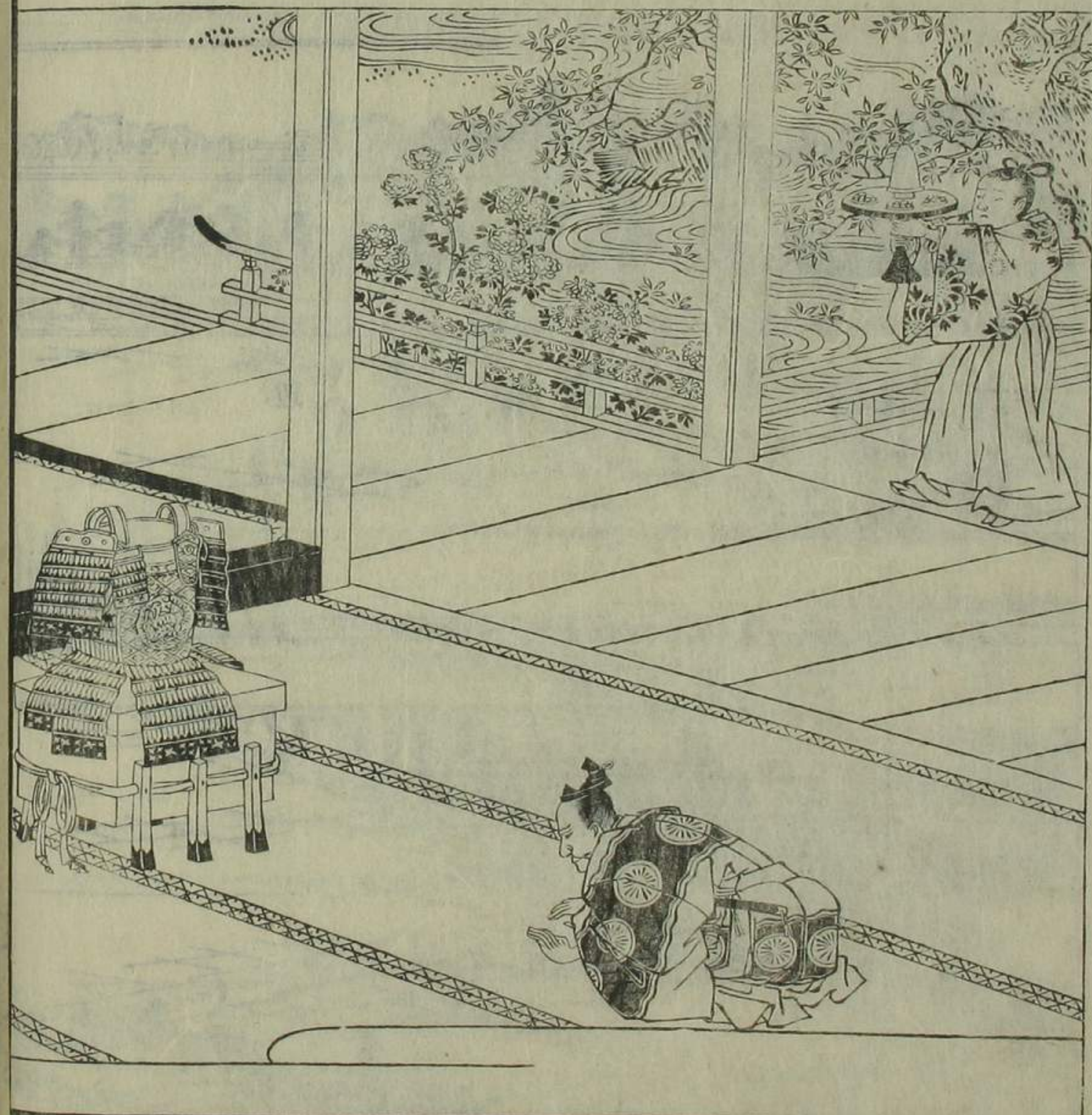


平塚明神
社
別當
株官寺

三國志の
記述
あり
し
こと
なり



八幡太郎義家兄弟
 奥加征伐凱陣の
 ころ武藏國よ入
 たかひ豊島某ら
 住し平塚の株よ
 逗留ありてあつこ
 壇一領と賜はり
 けり後塚よ築
 將ち株の留守と
 し平塚三本明林と
 いつこつりしも
 實よ武功のまゝ
 しむる極ある



鎌倉大草紙
 文明十年正月
 廿五日道灌豊島
 勘解由左衛門
 平塚の要害
 押寄貢ハタレハ
 其境は備へて
 敵は程九間株
 小机の株は絶と
 あり此平塚の
 事あり



ひらつらの
 平塚株戦



白鬚明神社



百五拾人討死す 中畧 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の
 要害一押寄責たれ其曉没落して敵ハ九同株小机の株ニ
 籠と云

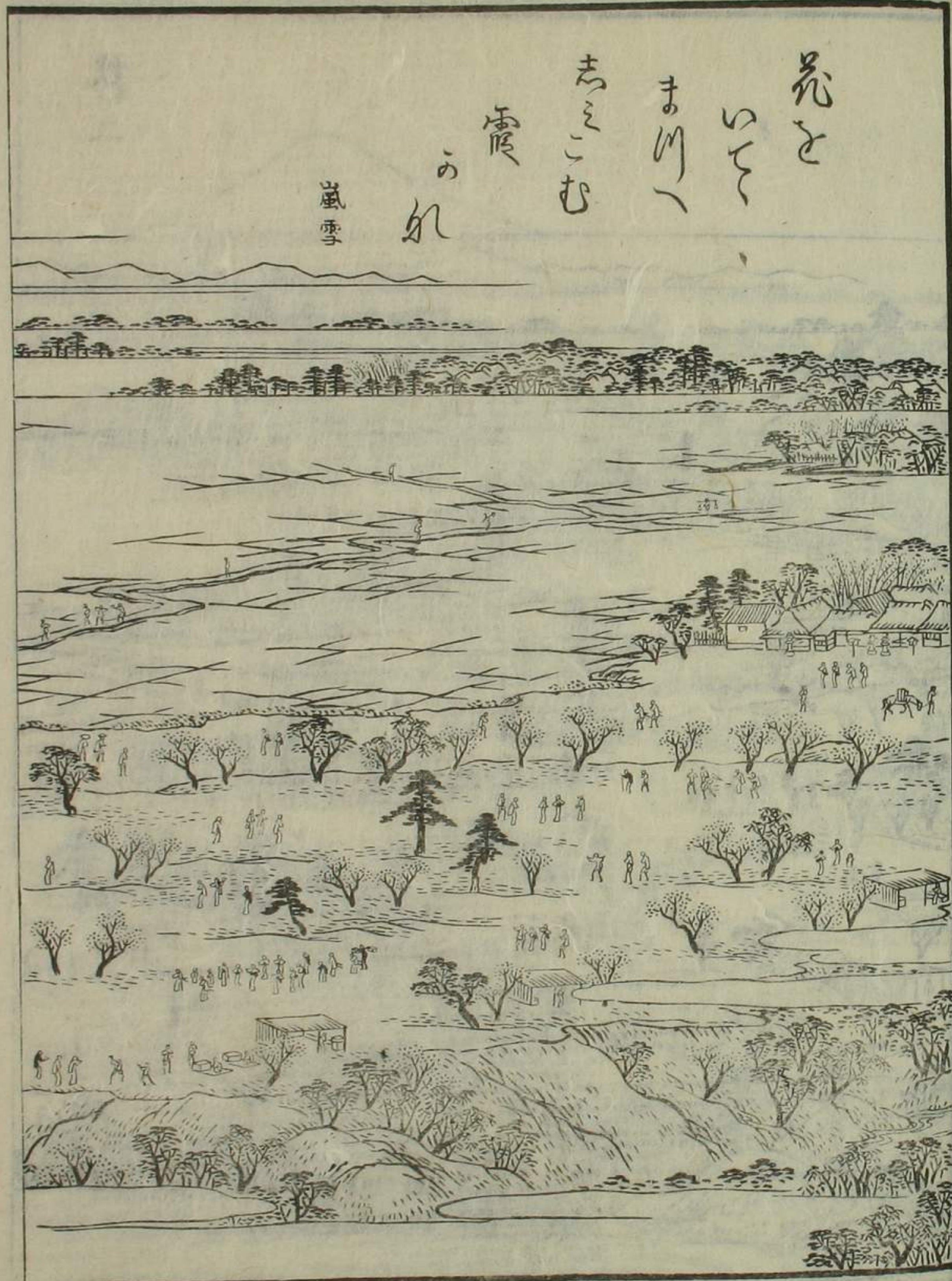
大追物上質地 同野道より右の方畑の地と指て云詳小林春齊先生
 の作也大追物記不出きり 図てこ小畧せり

飛鳥山 數萬歩小城たる芝生の丘よりて春花秋草夏涼冬雪
 眺あるの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥祠と移す

上ある飛鳥祠と遷して権現の社頭ニ鎮座ありたり其後元文
 の頃 台命よりつて榊樹數千株と植させらる内ハ遊觀の便と

外ハ萬竟の爲ます年と越て花木林とある爾より騷人墨
 客ハ句と摘章と尋虫牧童樵夫ハ袜と刈薪ととる殊よさゆら

中ハハの頃ハ榊花燦爛として尋常の觀ありは熊野の古式



嵐雪

の

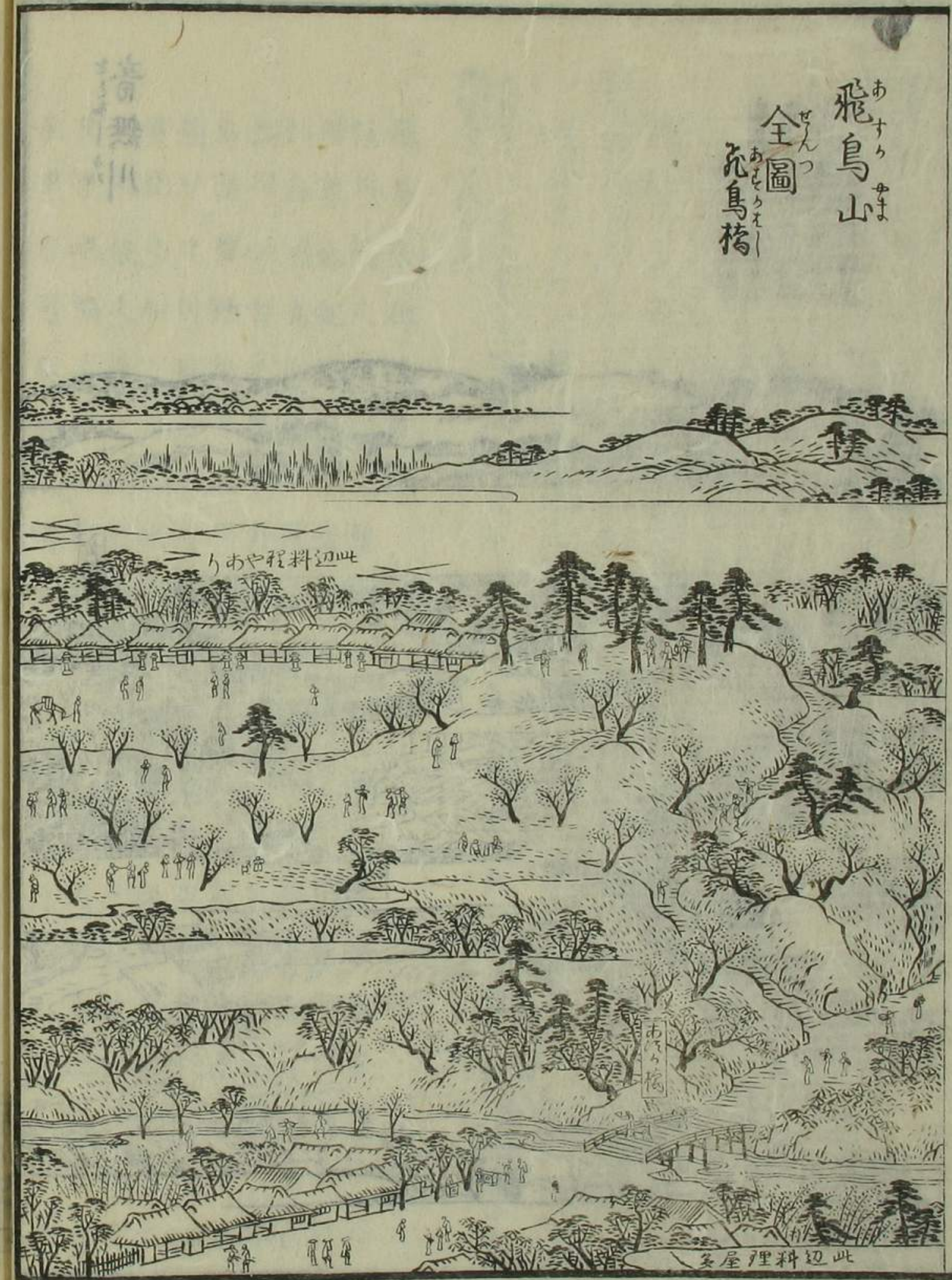
霞

志

ま

い

花



飛鳥山
あすの
かま
全圖
あすの
かま
橋

清

りあや程料辺此

多屋理科辺此

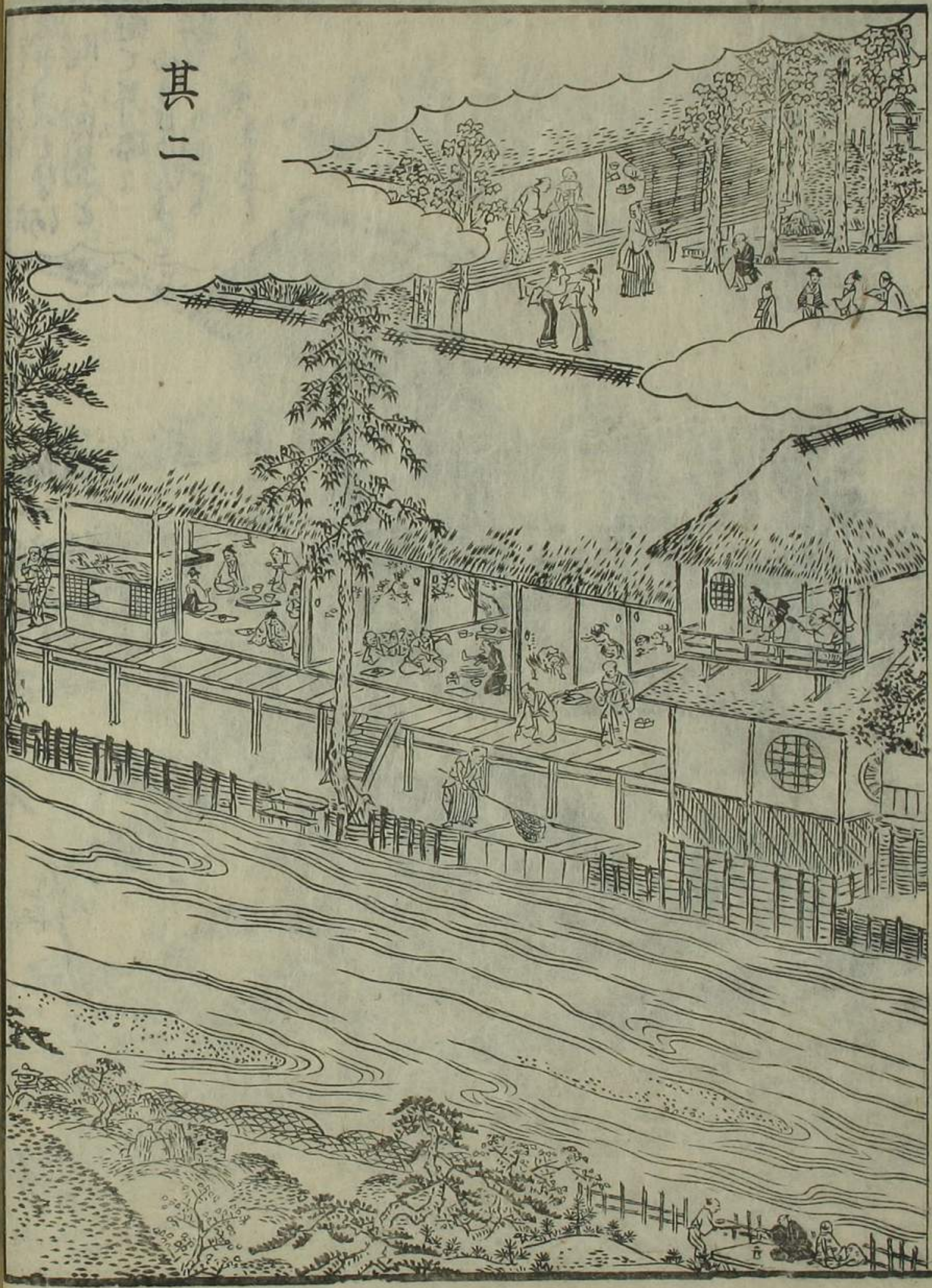




殊更涼をたのほ
 月よ炎暑と
 避て片路よ
 おりひうんを
 忘りのゆまも
 又少々す



飛鳥橋の
 あらりハ
 貨食の
 亭造の
 仕懸
 後亭の
 魚潔たる
 音の川の
 下流さうけく
 生洲とかきか
 都下と難るといふも
 常は玉子の
 稻荷、宿はる人こに
 臨ひ流は
 催し沈酔
 すらも
 夏の日ハ



其二

祠於本今茲鳥之山有三月己亥祠者由焉三批祠之次規
 北封飛鳥獨給祠無所與永屬奉祠者衛等恭
 土祠乃蹈以舞捧手稽敬則正施則八之行以日於穆郊為神之事
 奉誠不人明惠惟則初飛鳥之山蓬顯蔬壤維兔徑
 以神其治飲明惠惟則初飛鳥之山蓬顯蔬壤維兔徑
 焉泉瀑車駕之肇從而紀蕃也鳥有司行邑吏容谿谷道
 外為林每春役數十人乃植花木數千株內成花觀
 亦花祀者冥契會爛燭焉非抑種亦國之符也遂鏡
 于石以荒為表經銘曰之奇邪抑種亦國之符也遂鏡
 繇明我洪荒為表經銘曰之奇邪抑種亦國之符也遂鏡
 明支繁衍其來封其域八神迹眷祐東土是祀
 本載懿範之麗是勤
 千載懿範之麗是勤
 元文丁巳之秋
 碑陰飛鳥山四至榜示
 自長至坤七十三步
 自巽至乾二百二步
 奉都圖書府主事鳴鳳鄉代撰拜書
 東都圖書府主事鳴鳳鄉代撰拜書
 加藤忠郁刻

短冊公御舊跡
 今より昔年あやりのひく
 此山の麓に住る者あり名を勝行といふ何れ
 冊の産あり事とまら短冊と賣とびて世の業といひ因て人は是を呼んで短
 冊の産あり事とまら短冊と賣とびて世の業といひ因て人は是を呼んで短
 と集ると己の短冊と見とるや
 後其流をかくして持不とまら

王子権現社



王子権現社

飛鳥山の北の方音響河を隔てあり

奉殿 祭神 伊弉册尊

左 速玉男命 三神鎮座

社記曰若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勧請ハ後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新ニ祠宇を建て崇ける風霜

ぬり案月深して朝の露の香を焚くとあやそ夜の月ハ燈を

挑ふ似より霊神ハ人の敬よりて其威とま一境致ハ霊神の徳

ふよりて其名を弘くはらく此神の奉を辱れハ伊弉諾伊弉册

の尊と申ハ二柱のみこと國土とらみ萬の物とらり其廣大の功

徳既不成て後伊弉册尊神退ま一々ハ紀伊熊野の有馬村

ニおはちまらふ熊野大神是なり此神を祭るふ春ハ花をとて

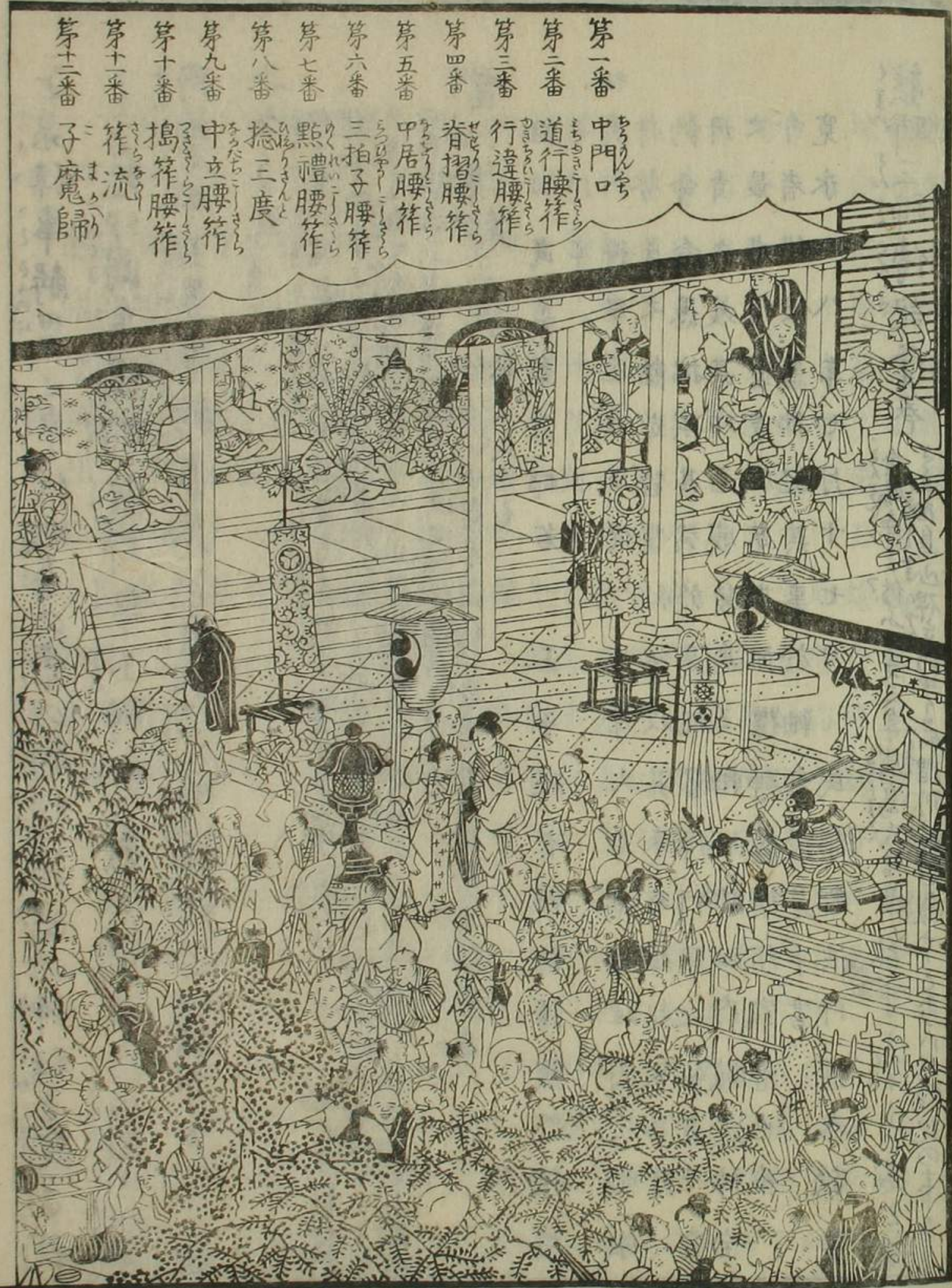
祭り鼓うち笛吹旗立て調練て祭る白河院の御製ふ咲白

花のけしきと見ふくくは神の心を小志らるとよみぬるハ

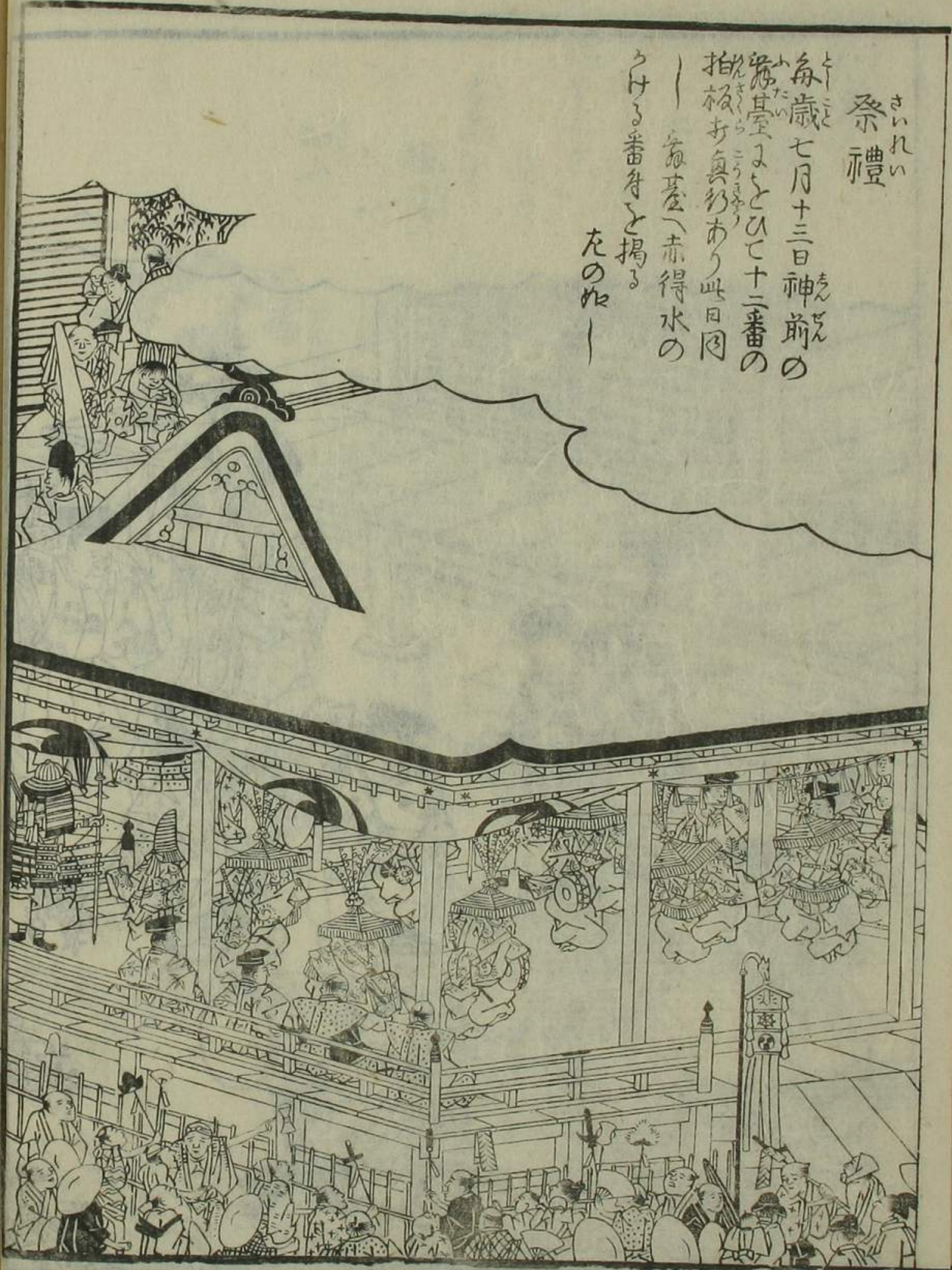
花さつれの事あるハ此神の御子と熊野早玉男とまらふ其第一



花慎の
 祭礼ハ
 今
 たり
 夜せんり
 古
 模写
 加ふ



第一番 中門口
 第二番 道行腰符
 第三番 行違腰符
 第四番 脊摺腰符
 第五番 中居腰符
 第六番 三拍子腰符
 第七番 點禮腰符
 第八番 捻三度
 第九番 中立腰符
 第十番 搗符腰符
 第十一番 符流
 第十二番 子魔歸



祭禮
 毎歲七月十三日神前
 祭臺よりひて十二番の
 拍板お真砂あり此日同
 一 祭臺へ赤得水の
 うけし番舟と掲る
 左の如し

と泉津事解男と申は延喜の帝の御時諸國の神社と記され
しは紀伊國牟婁郡熊野早玉神社とありは是なり此故小伊特
冊尊早玉男事解男是と熊野三所権現といひをさへせるも

ふありぬえ

當社縁起三卷
の内に上八巻八百六十文の地とあり
鈴木氏と云

征也 跋也 項年 武加 豐島郡若一王子社者 所勸請熊野權現
神夷大將軍 餘臣從一位源大君治世國之暇敬
丹青命之愚拙撰造 其詞於社是能以揮行草勢盡
命者最復也 遺其功於世而軸耀神威鎮邦家者 是奉
寬永十一年七月十七日 於民部卿法印道春敬書

熊野三神傳記壹卷

金輪寺に傳記の文あり
熊野三神傳記の文あり

元山乎其測乎草神鳳福分語一至冥祀為邑冊尊唯帝本祀熊熊
文碑不必之聖木而鄉八福二冥二幡邑尊所耶六宮伊墊墊
丁遂遷在謂者區秀聞咫二之子神中神鼓右既過智十五冊神
已閱嗟結神之萌不之鳥神道共始有之樂華窟生化詳年有尊蓋傳
之舊乎繩其出而可紀自之形配生物地舞窟即火乃起始里及三記
冬史神先不寧達體人外惠於熊日象其跡今尋之生何建三速祀日
東謹之而然知厥矣熊諸是人墊神帝跡今尋之生何建三速祀日
都叙國神邪不土厥墊祠已物祠是之業尚神神國皆本曰玉皆
中三其德蓋在壤石之則其自其惠新天號在也地灼草神景智命牟
秘神疇不可神乎壚而而海世略速耶大常官古之遺俗乃軻伊十五命紀
書事如欽擄之豈而而麗而所也玉智神亦又尊云遺也祀之紀突諾年里二治
監此哉如跡帝肥麗而所也玉智神亦又尊云遺也祀之紀突諾年里二治
源鳳斯在興神殿昇副若事亦又尊云遺也祀之紀突諾年里二治
鳳卿夫彼雲之水峙各有飛二依弱之曰開產以之阿為伊建新崇
鄉日神盤兩止澄天有鳥王其官代七關田花結哩火勢是降
子代統古降焉徹二其鳥王其官代七關田花結哩火勢是降
陽撰千之福固其其所存者凡號焉之祠結哩火勢是降
謹飛世紀登其其所存者凡號焉之祠結哩火勢是降
識鳥確邪不所厥造焉徐特我弱傳始又繩馬神冊官神距

大般若經卷第三百四十九 今卷と侍るもの余ハ室曆六年上カカカ屋村正法寺

奉施入武別豊島郡能所権現御寶前文保二年戊午初秋

大施主右侍門尉平行泰教白とあり 小糸氏直神領

古證文二通 奇附の證文あり 千鳥戻風一雙 狩野古法眼え信の筆あり

蒼廬屋塗一口の奉納あり 共々小糸氏直

祭禮 例年七月十三日ふして十貳番の拍板あり 此日王子の村の童み

て警固の祭終て後奈宿の貴様彼岸と誓つて餅り火火盗難と除くの守護とく是 毎々竹の岸と持

れ古よりのお俗とそとえ一其か一季七十余度の祭礼連符として國安寧五穀豊 饒の御意候あり

奉比堂 奉社の左あり除花薬師千手 卷一王三子官 奉社の右あり新官天照

飛鳥祠 洞川には種々神ハ奉代主の令あり 豊島左邊門あり 命は依て當社の境内

康家清光社 洞川社の左あり 是豊島左邊門権頭清光父の 靈と傳る其余未社多しとくもくに思ふ

樓門額 仁和寺覺深法親王真蹟

豊島宮

仁和寺覺深法親王真蹟

當社ハすて紀列能野山の地勢と寫し前小音川の流と受け

風色真あり花の時ハ花とめて祀といふ神と小園や社頭

多く梯樹と植て春の頃ハ境内殊々觀賞ありあり亦冬月雪の眺

金も此小勝まあり

王子稻荷社 同北の方あり往古ハ片稻荷と号し今當社より出すと

この牛若宝印小志り記せり

奉殿 倉稻魂命 聖觀世音 藥師如來 奉宮 十一面觀世音

王子権現縁起曰われの世ふありん此社の傍は稻荷明神と云

いそひんハ毎年暎晦の夜諸方の命婦此社へ集り来ふ其ともせら

火の連りつけら奉そくそくの松明と並ふる如く數解の螢と放

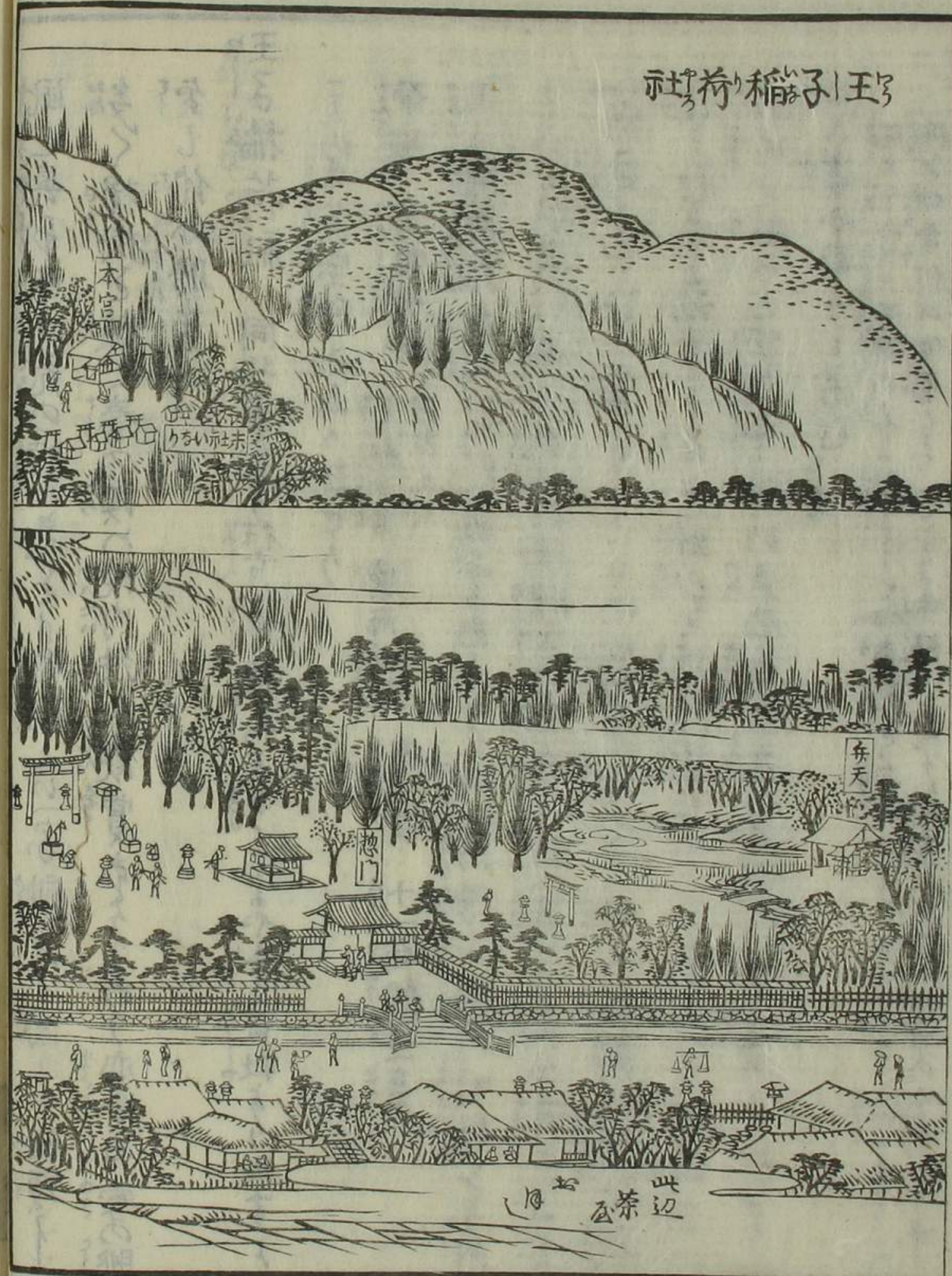
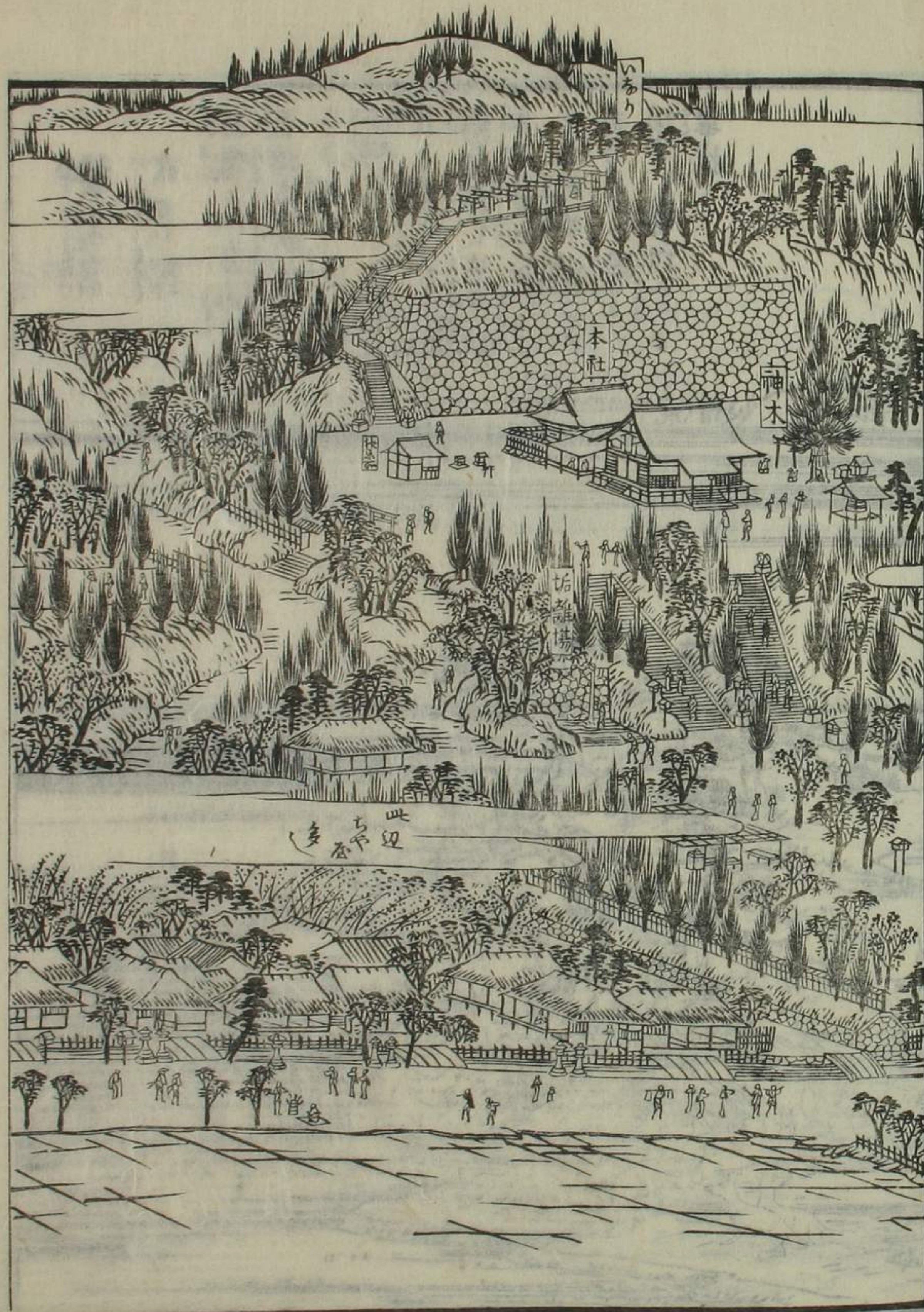
花しむふに似そり其道野山を通ひ河辺をかゝる不同と見て明年の

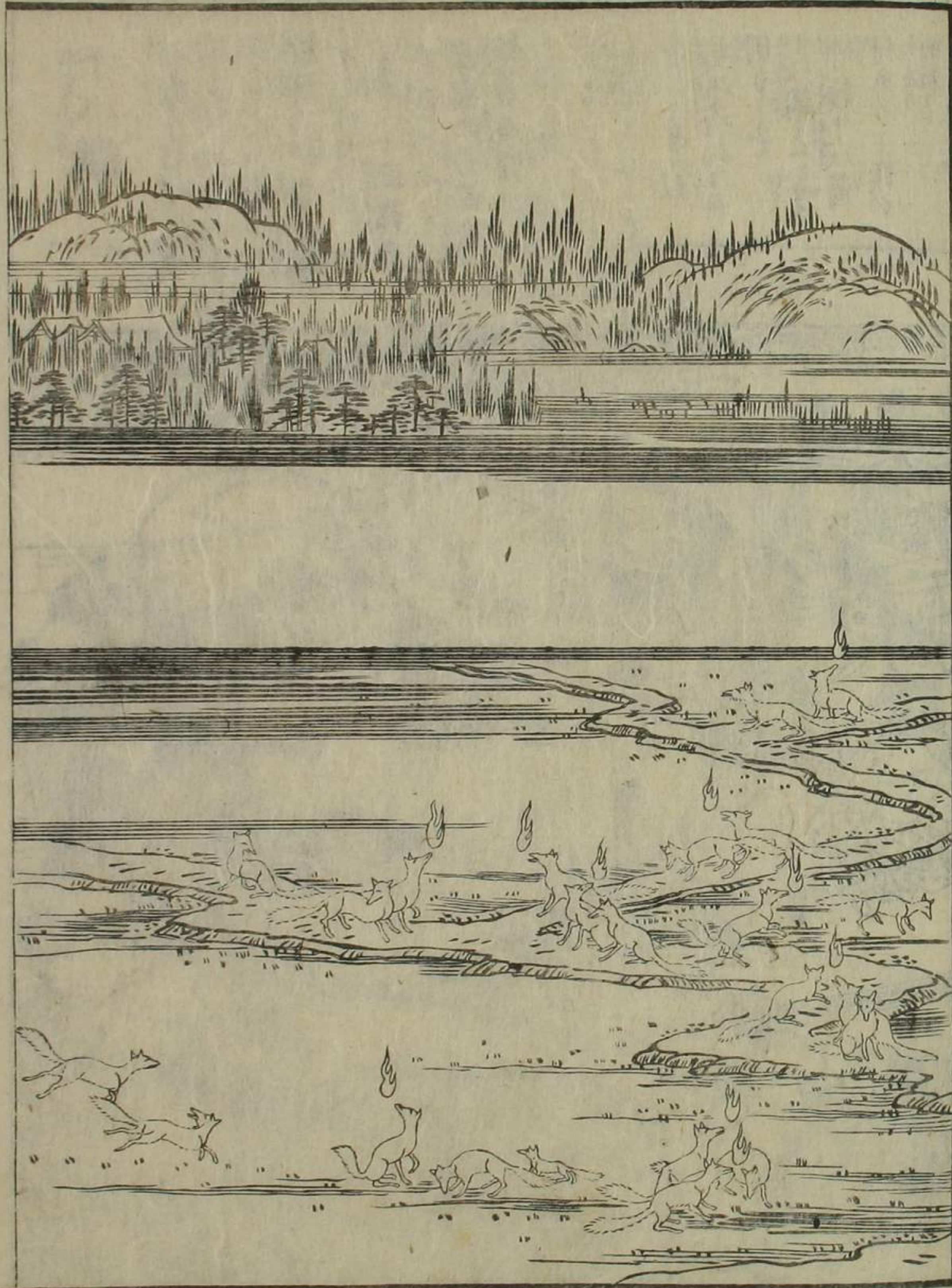
豊凶と知るとは命婦の灸の白と丸の尾あり奇瑞のりのありと

右に書小ありとあり 下畧

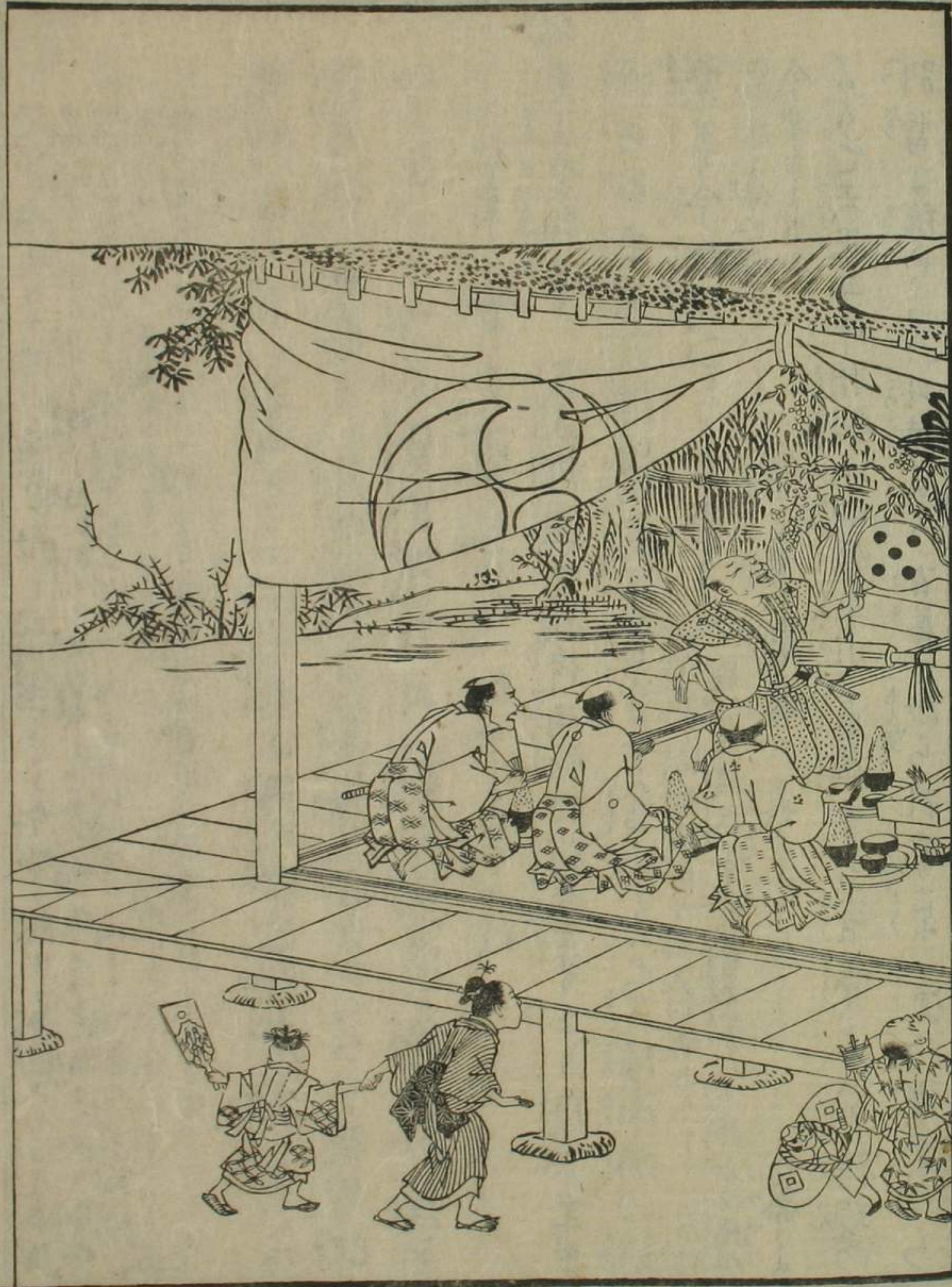
因云今の世三狐神の名は附令して伊奈利と白狐とすらゆのハ大あり

狐と伊奈利の使者と一又と命婦ととらハ武書に云後小松帝の唯徳年中





奉^{ほう}束^{そく}自^じ由^{ゆう} 衣^い裳^{しょう} 櫛^し
 毎^{まい}歲^{さい}十^{じゅう}二^に月^{げつ}晦^{まい}日^{にち}の
 夜^よ諸^{しよ}方^{ほう}の^{あま}狐^こ殿^{どの}一^{いつ}く
 こみ集^{あつ}り來^{きた}るも
 恒^{つね}例^{れい}に^よて今^{いま}も
 然^{しか}り共^{とも}燈^{とう}を^{とも}り火^ひ
 影^{かげ}み依^よて土^ど民^{みん}明^{めい}
 年^{とし}の^{こと}豐^{とよ}凶^{きゆう}と
 とを^{こと}此^こ事^じ禱^{いた}ふ
 ありか^ある^まる^まる^まる^ま
 何^{なに}と^と時^{とき}刻^{とき}定^{さだ}む
 事^{こと}れ



十八講

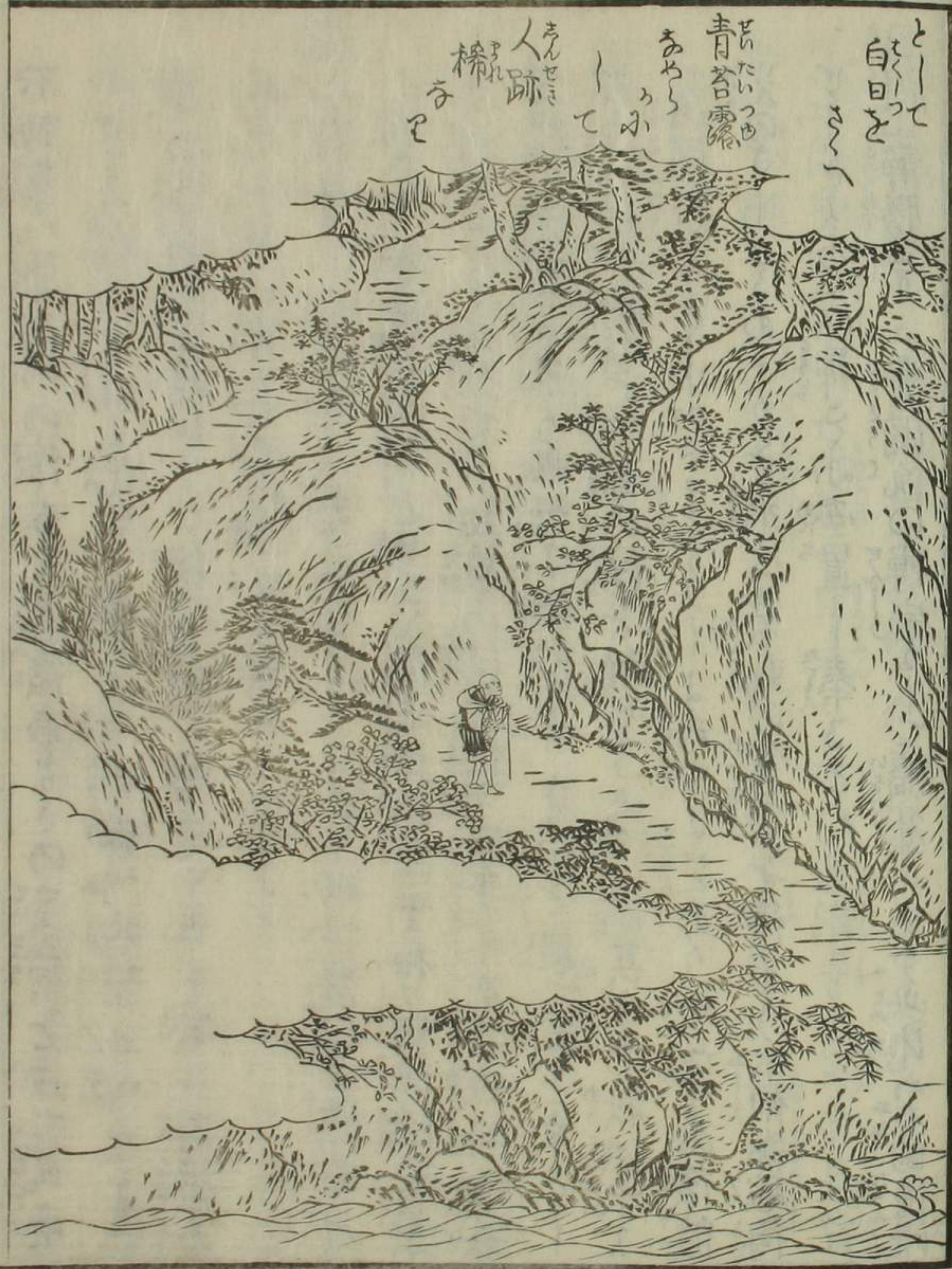
毎歳正月十七日
 王子村農家よ
 是と行ふ當日
 権殿の別當金輪
 寺の住持と
 誂請一酒飯の
 資夜半小して
 當番の百姓村
 板釜魚盤の
 三四と推考して
 のれとよいやさの
 聲とあして
 食とぞむ
 是此の舊
 例として
 十八講とハサ
 神領十八箇
 村あり一頃の
 旧村と





まつぎ べんさいてん のいしや
松橋辨財天窟
いしのかみ
石神井川





といて
 白目と
 青苔露
 あわ
 人跡
 橋



不動龍
 泉流龍とも云
 正受院の本堂の
 後坂浴
 飛泉
 滝
 岩十歩
 消壁
 此境
 常
 蒼樹

あつた常^{つね}よて小^こ在^あて詩^{うた}歌^{うた}とたしむ仍^{なほ}殊^{こと}北^{きた}の管^{くだん}神^{かみ}と勸^{すす}請^{ねが}し祠^{ほくら}
城^{しろ}建^たる^る今^{いま}の^の作^し殊^{こと}西^{さい}平^{へい}川^{がわ} 此^{この}時^{とき}兩^{りゆう}上^{じやう}杉^{のぎ} 山^{やま}内^{うち}上^{じやう}杉^{のぎ}兵^{へい}部^ぶ少^{せう}輔^ほ房^{ぼう}頭^{づかみ} 權^{けん}とらふとひ
牙^は小^ここを^をと^と終^{つひ}小^こ間^ま計^{けい}を^を以^{もつ}て定^{さだ}む^む道^{みち}灌^{かん}と^とうた^たら^らひ^ひふ^ふと^との^の川^{がわ}て
定^{さだ}正^{せい}人^{にん}と^として灌^{かん}と^と浴^{よく}室^{しつ}小^こ刺^し殺^{ころ}さ^さし^し時^{とき}小^こ文^{ぶん}明^{めい}十^{じゅう}八^{はち}年^{ねん}丙^{へい}午^ご七^{しち}月^{げつ}廿^{にじゅう}六^{ろく}
六^む月^{げつ}年^{ねん}五^ご十^{じゅう}五^ご歳^{さい} 相^{さう}易^い槽^{そう}屋^{いつ}洞^{どう}冒^{ぼう} 元^{げん}よの^のを^をむ^むて^て云^いく^く余^よを^を害^{がい}す^する^るは^は定^{さだ}正^{せい}正^{せい}疾^{しつ}
の^の北^{きた}なり^りと^とを^をた^たして定^{さだ}正^{せい}威^い衰^{すい}再^{また}以^{もつ}振^{ふる}ひ^ひ灌^{かん}を^をより^り先^{さき}實^{じつ}正^{せい}年^{ねん}中^{ちゆう}
上^{じやう}流^{りゆう}す 勅^{ちやく}して^{して}び^びさ^さの^の勝^{かつ}景^{けい}を^を同^{どう}し^しむ^む和^わ哥^かを^を以^{もつ}て^て答^{こた}奉^{ほう}る^る
露^{つゆ}路^ろ並^{なら}ぬ^ぬ方^{かた}も^もあり^り夕^{ゆふ}立^{たち}の^の空^{そら}より^りひ^ひろ^ろと^とび^びさ^さの^の原^{はら}
又^{また}平^{へい}生^{せい}の^の眺^{なが}を^を成^{なり}と^とを^をむ^む
赤^{せき}庵^{あん}ハ^ハ松^{まつ}原^{はら}つ^つこ^こ海^{うみ}を^をく^く富^ふ士^しの^の高^{たか}根^ねと^と軒^{のき}端^{たん}も^もと^とも^も
此^{この}時^{とき}感^{かん}の^のあ^あり^り 御^ご製^{せい}を^をた^たま^まふ
む^むさ^さの^の高^{たか}萱^{うな}の^のこ^こと^と思^{おも}ひ^ひし^しよ^よか^かる^る言^{こと}葉^はの^の花^{はな}や^や咲^さら^らび
又^{また}あ^ある^る時^{とき} 勅^{ちやく}して^{して}角^{かく}田^{でん}河^がの^の都^と鳥^{とり}と^とい^いは^はた^たす^すよ^よ

年少^{せうしやう}れと^と赤^{せき}羽^うと^と志^しら^らぬ^ぬ都^と鳥^{とり}角^{かく}田^{でん}河^が系^{けい}は^は宿^{やと}ハ^ハあ^あれ^れと^とも^も
其^{その}余^の和^わ哥^かハ^ハ赤^{せき}羽^うの^の集^{しゆ}ま^まと^と以^{もつ}て^てこ^こを^を畧^{りやく}す

赤^{せき}羽^う山^{さん}八^{はち}幡^{ばん}宮^{みや}社^{しゃ} あり^りを^を存^{ぞん}む^むは^はあり^り社^{しゃ}傳^{でん}云^い當^{たう}社^{しゃ}鎮^{ちん}座^ざの^の年^{ねん}歴^{れき}ハ
久^{きう}を^をみ^みて^て詳^{しやう}を^をく^くと^とそ^そ中^{ちゆう}右^う大^{だい}荒^{わう}廢^{はい}よ^よと^とひ^ひ一^{いつ}城^{じやう}文^{ぶん}明^{めい}の^の頃^{ころ}
左^さ田^{でん}道^{だう}灌^{かん}再^{また}與^よあり^りし^しより^り祭^{さい}禮^{らい}怠^{たい}る^る事^{こと}を^を一^{いつ}神^{しん}宝^{ぼう}ハ^ハ獅^し子^しの^の頭^{かぶ}
一^{いつ}个^こ右^うさ^さ面^{めん}二^に枚^{まい}あり^り

川^{かわ}口^{くち}渡^{わたり} 往^い古^この^の川^{かわ}口^{くち}に^にち^ち 義^ぎ經^{けい}記^きハ^ハ九^く席^{せき}佛^{ぶつ}曹^{そう}子^し與^よ勿^{ぶつ}り^り 鎌^{かま}倉^{くら}ハ^ハ至^{いた}り^りと^と
い^いる^る條^{じょう}下^げハ^ハ室^{むろ}の^の八^{はち}島^{しま}と^とを^を以^{もつ}て^て武^ぶ藏^{ざう}四^し豆^{とう}立^{たち}郡^{ぐん}こ^こら^らを^をち^ちは^は著^{ちやく}たり^り
佛^{ぶつ}曹^{そう}子^しの^の所^{しよ}地^ぢハ^ハ八^{はち}十^{じゅう}五^ご騎^きも^もそ^そを^をり^り小^こさ^さな^な板^{いた}橋^{はし}も^もと^とせ^せ附^つて^て兵^{へい}衛^ゑ依^い殿^{でん}
ハ^ハと^と同^{どう}た^たら^らハ^ハ其^{その}と^とを^を以^{もつ}て^て候^{こう}と^と申^{まを}武^ぶ藏^{ざう}の^の四^し所^{しよ}町^{ちやう}ハ^ハ
つ^つき^きて^て依^い殿^{でん}と^と仰^{おほ}け^けれ^れハ^ハ其^{その}と^とを^を以^{もつ}て^て通^{とほ}ら^らせ^せたり^り以^{もつ}て^て候^{こう}相^{さう}摸^もの^の平^{へい}塚^{づか}よ^よと^と
こ^こを^を申^{まを}す^すと^と云^いふ^ふ

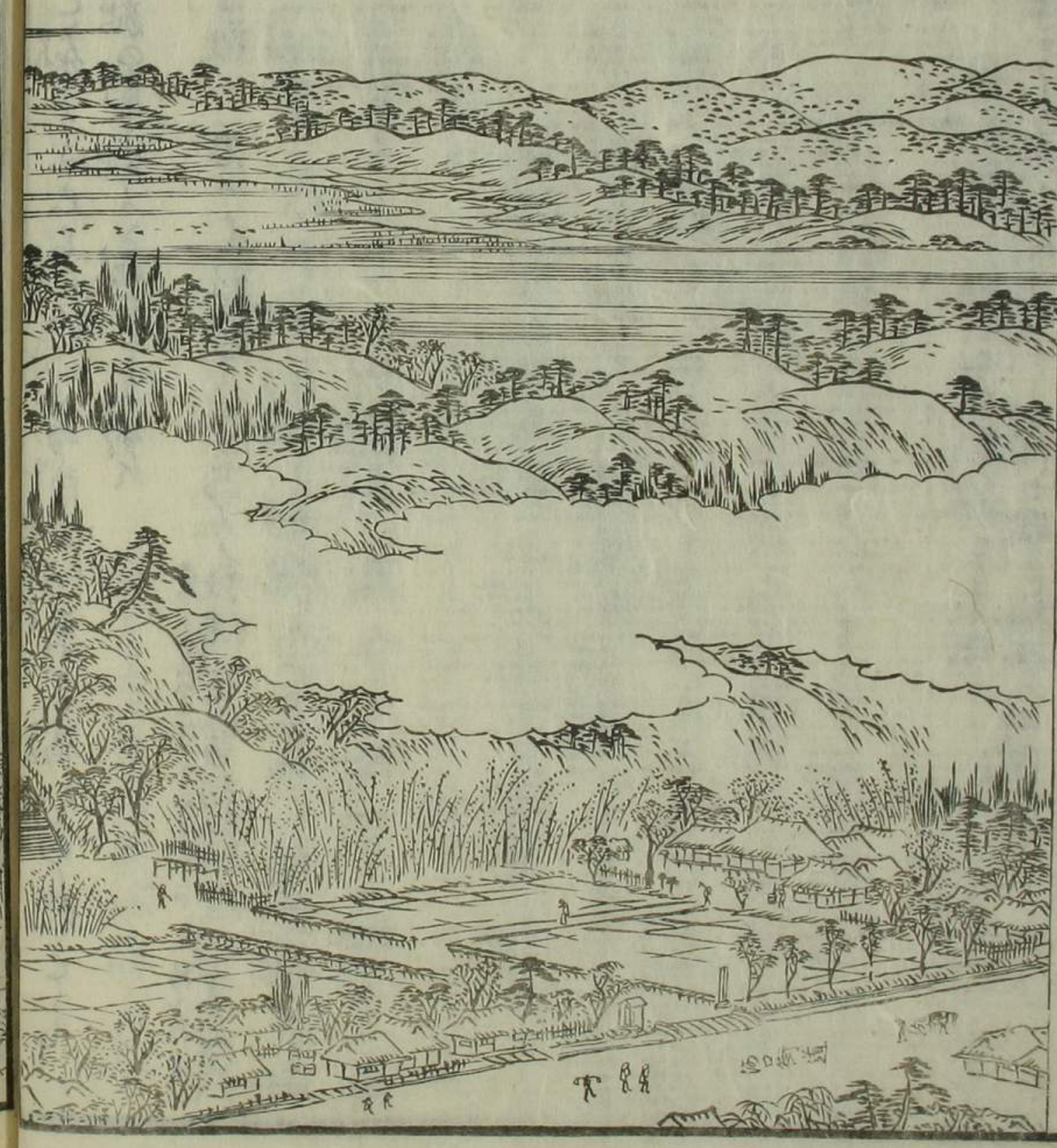
按^ある^る濃^{のう}湯^{たう}より^りま^ま丁^{てい}程^{じやう}南^{なん}の^の方^{かた}の^の元^{げん}ハ^ハ府^ふ中^{ちゆう}道^{だう}と^と記^きせ^せる^る石^{いし}標^{ひょう}あり^り是^{こゝ}往^い古^この^の奥^{おく}の^の海^{うみ}道^{だう}あり^り
是^{こゝ}より^り板^{いた}橋^{はし}より^り府^ふ中^{ちゆう}の^の六^{ろく}所^{しよ}町^{ちやう}より^り玉^{たま}川^{がわ}と^と流^{なが}り^りて^て相^{さう}摸^もの^の平^{へい}塚^{づか}ハ^ハ其^{その}と^とを^を以^{もつ}て^てなり^り

懸雲燈
 圓通閣
 灌公祠
 梵鯨樓
 古城跡
 樓鶴壕
 靈龜池
 蟠松岡

右當寺の八勝
 あり筑波石正
 倚の詩あり是
 と畧ん



静勝寺
 龜ヶ池
 五葉松





富士の

まゝ根

新瑞よ

とそ

持質



永庵

松原

つさ

海

ち

く

ち田持質

合重亭より

士峯とをま

和哥と旅す

赤羽山八幡宮



川口善光寺

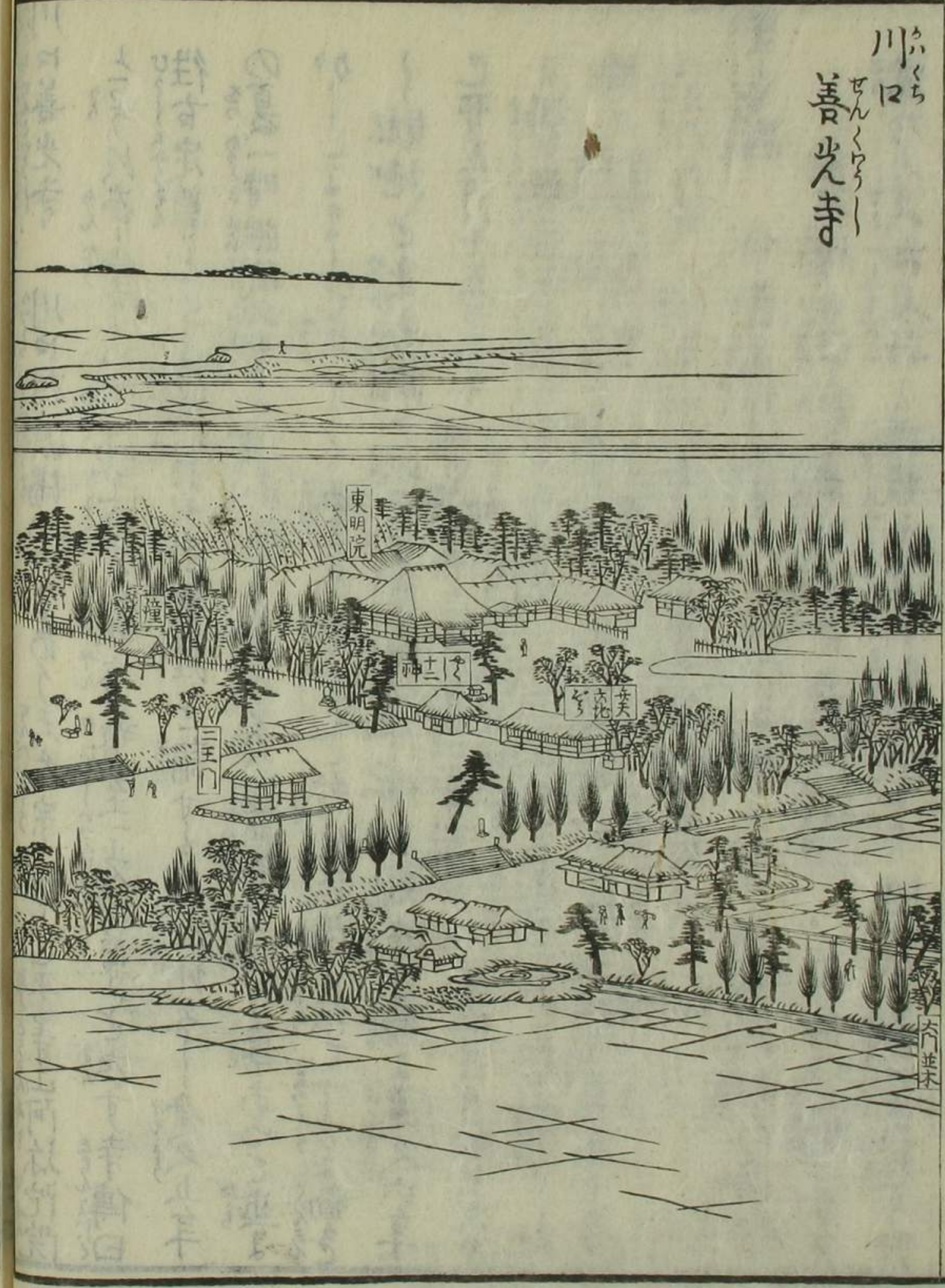
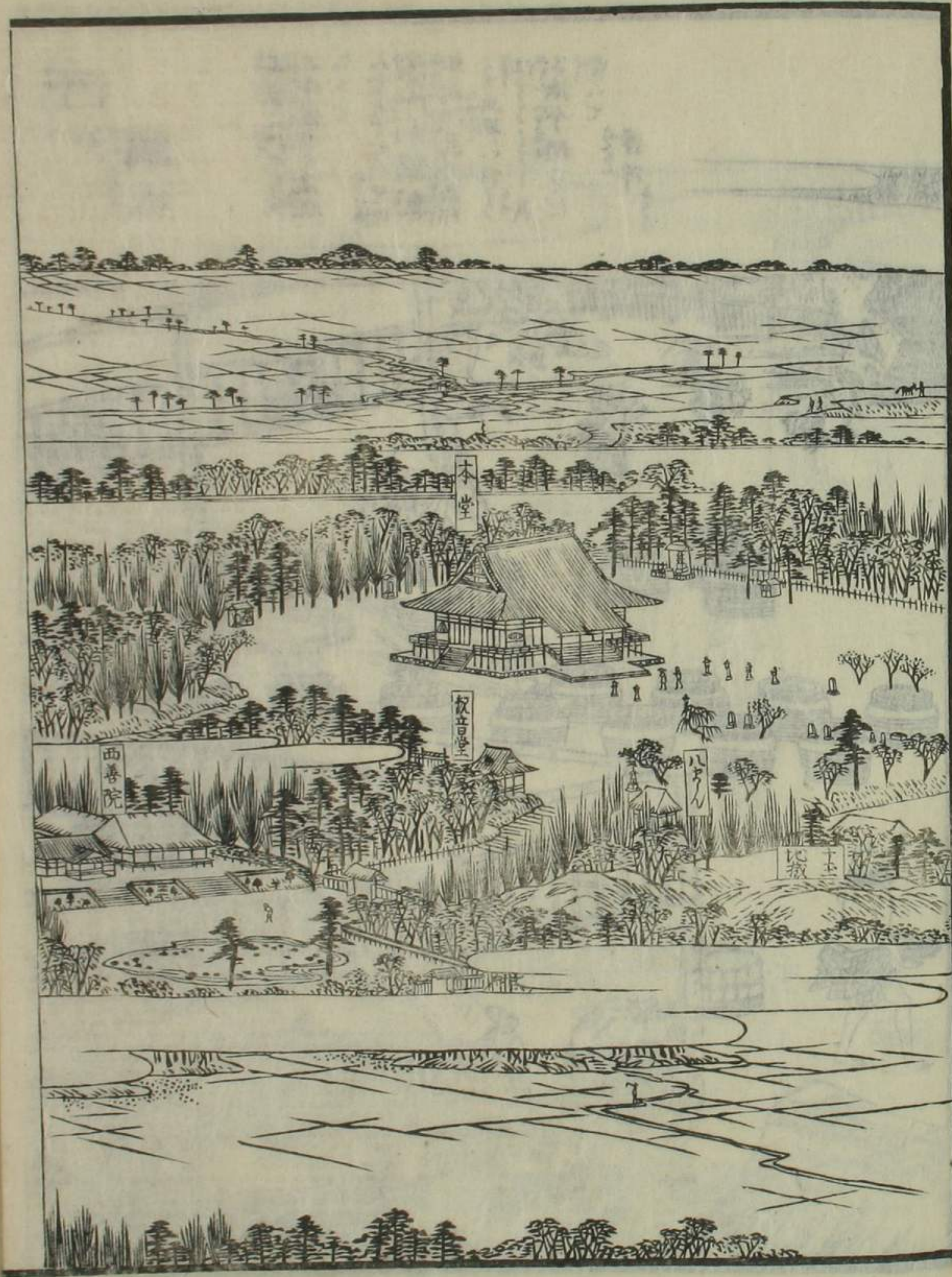
川口村渡場の北にあり天長宗中にて平等山阿弥陀院

と号し奉堂より阿弥陀如来観音執至一光三尊と安す寺傳曰
 往古定尊といふ御門あり法華經と誦す外他を建久五年
 の夏一時睡眠の中は信の善光寺如来の聖告と得る事あつて速に
 かこよまて正しく如来の聖容と拜し示現に依て十方を勧む
 財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年
 己丑五月十五日あり
佛の御胸中より三寸五分の水晶の宝塔とこめ
 うちより佛舍利四十八顆と収めたる事あり
 又脇土観音執至の二尊と鑄奉る終に堂宇と建立して善光寺と
 號し
佛告に依て四十八日の間四十八度の宛眼供養と修行しけり奉師如来降臨ありて
 當佛の頂と摩すことも一宛眼去たりしなり當寺縁起小詳あり
 二王門の額に平等山とあり八黄壁木庵の筆あり

豊島驛

今豊島村と号する地其旧跡ありて往古に此郡の府あり

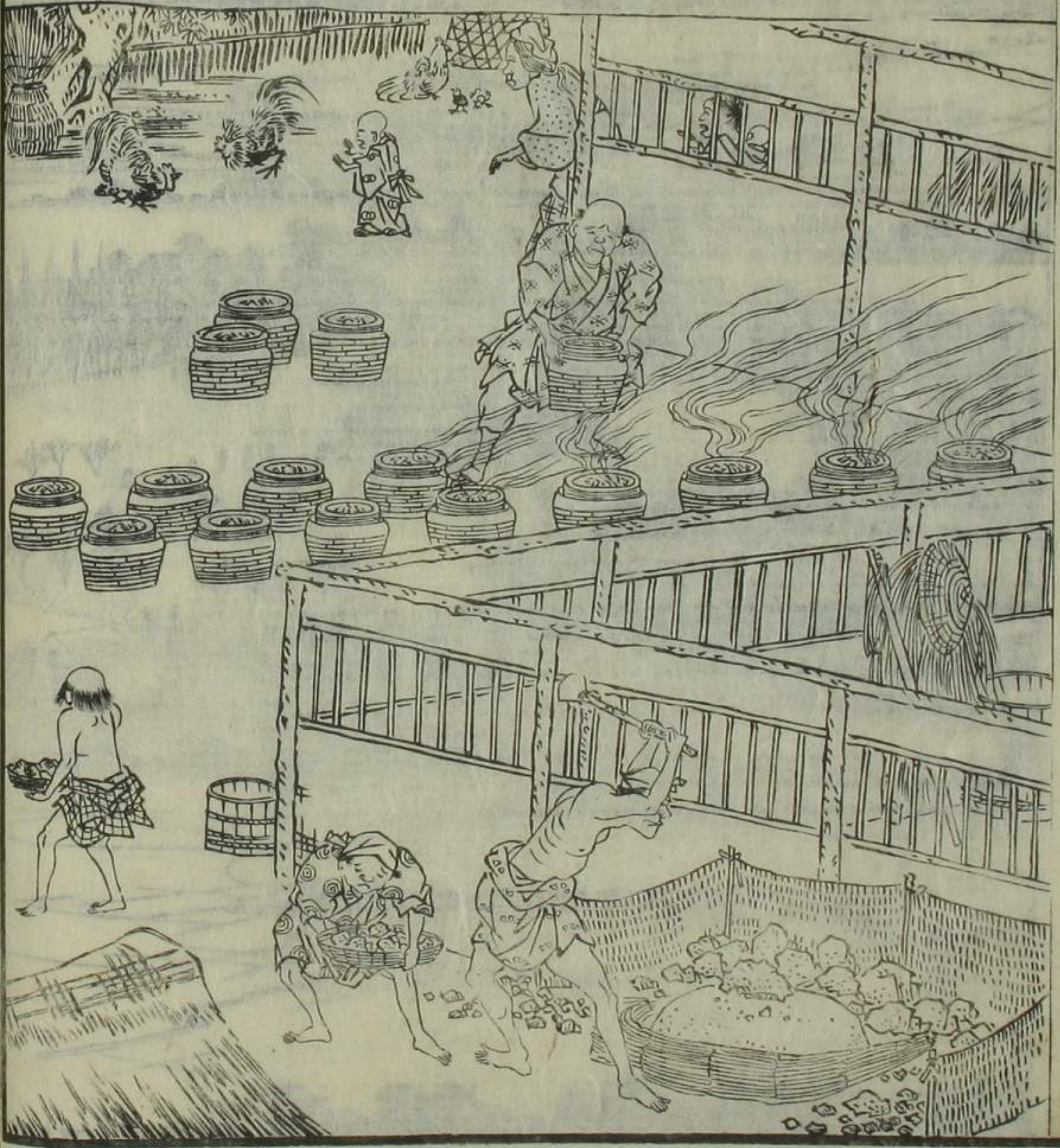
一と見ゆ續日本記に武藏國衆渚
今其所と云く
 証も又詳あり
 豊島の二駅の事と
 峯たり又和名抄に武藏國豊島郡とあり中驛家と記せるはとら六



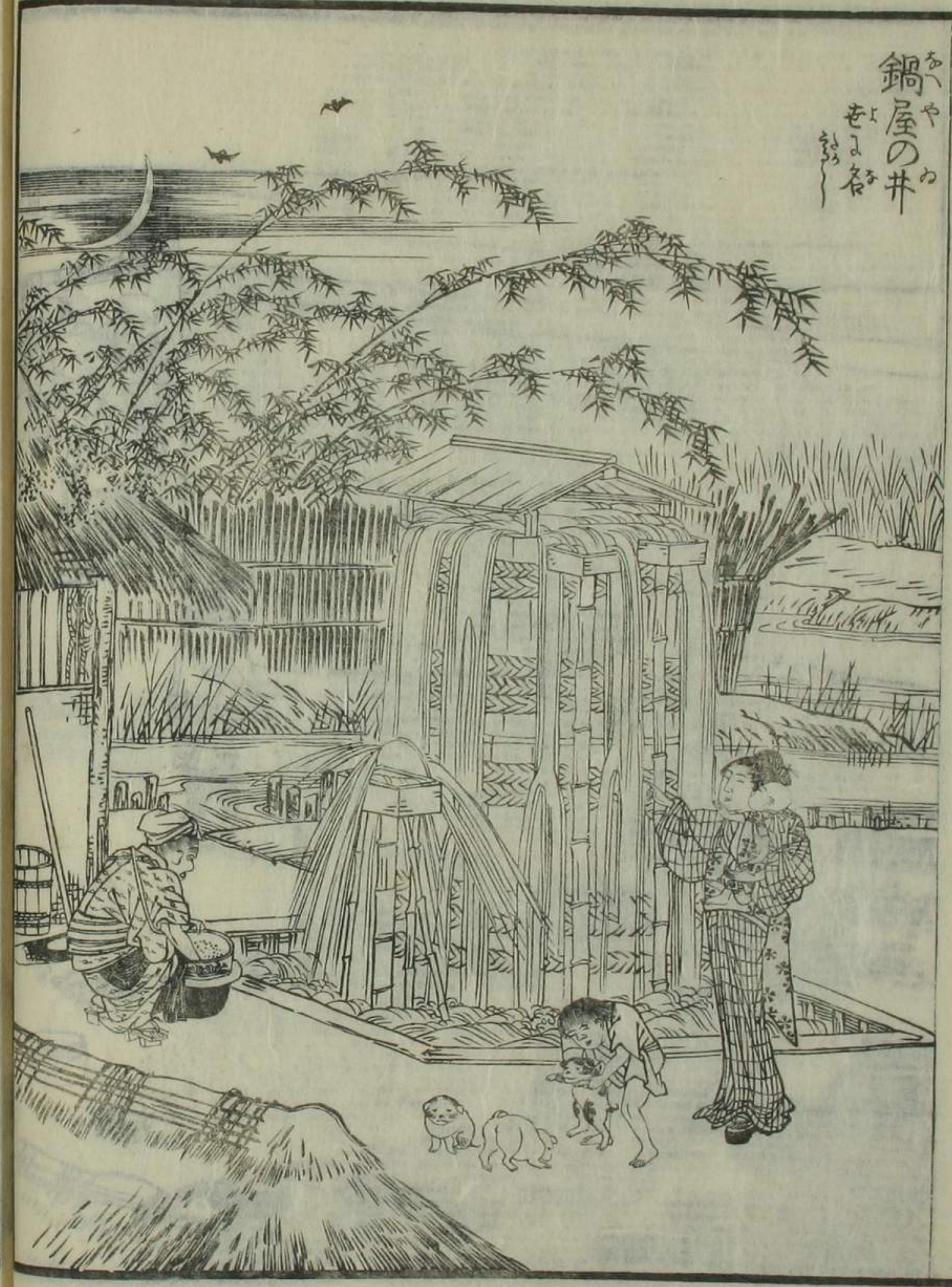


河鍋匠

其家に傳へて云
天命國家の後胤
あつて
人皇九十七代光明
院の御宇應
年同河鍋匠
此所に移り
住す其
子孫今猶こに
榮へて
連綿とす



鍋屋の井
せよ各



此地をん飲 或人云豊島郡浦ノ原村に於て豊島を屏義近と云一人此地にありて
大宮三屏盛負豊島又を屏時光と武藏國豊島を食谷と相傳ふる大宮の有忠四一と打
より事起るとおれハかき鳴氏代々住せしと云えたり又辨人君大草紙小文明九年豊島郡浦
左衛門尉泰經舎弟平右衛門泰明平塚の味ありて道灌といと戦ひ於て討死し明十年
正月縁味すとあれハ文明の頃ハ豊島村の地あり住せりといふ永祿年中北条多限帳よ
右内新六屏知行の中よはた豊島の地名と加ふ按よ永祿の頃ハ右田新六屏知行
せしと云ふなり

三縁山西福寺

豊島あり禪宗よして行基菩薩の完基あり奉尊

阿弥陀如来も同作あり

豊島権頭清光建立 當寺ハ六阿弥陀尊壹番目よ

して是と元木のぬ來と云跡起あれとも未詳あるハ四巻目小石川

光圓寺の糸下と懸し合せて見ると

梶原塚

梶原堀内豊嶋川の浜曲堤の奉あり

此塚ハ右田美濃守入道資正の次男梶原源右政景の

墳墓あり 梶原上總介の後萩養子と云 享保の頃返ハ石碑石檀あり

洪水の時豊島川崩れ込けりとして今ハ小巻の中よ一株の杓のそ存

せり 梶原堀内よはたはたの地と加ふなり

又平塚明神の北飛鳥山



六

阿弥陀

かけて

あく

らむ

石とく

きん

其角



西福寺

六河は陀

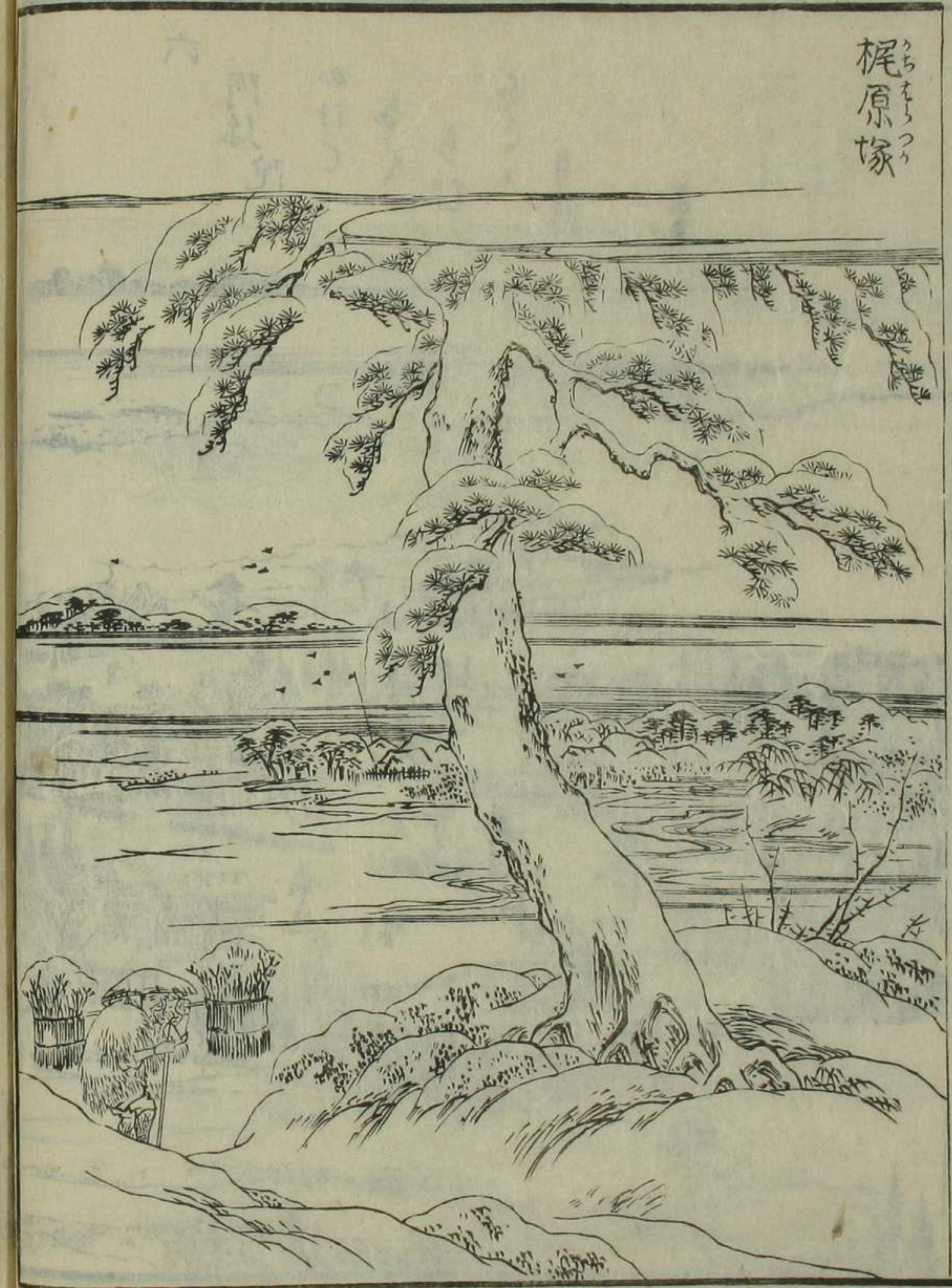
茅壹番

梶原塚

川まじ

塚原梶

梶原塚



の麓に今梶原屋鋪跡といふ所あり按ずると是も政景の弟
 宅の地ありん

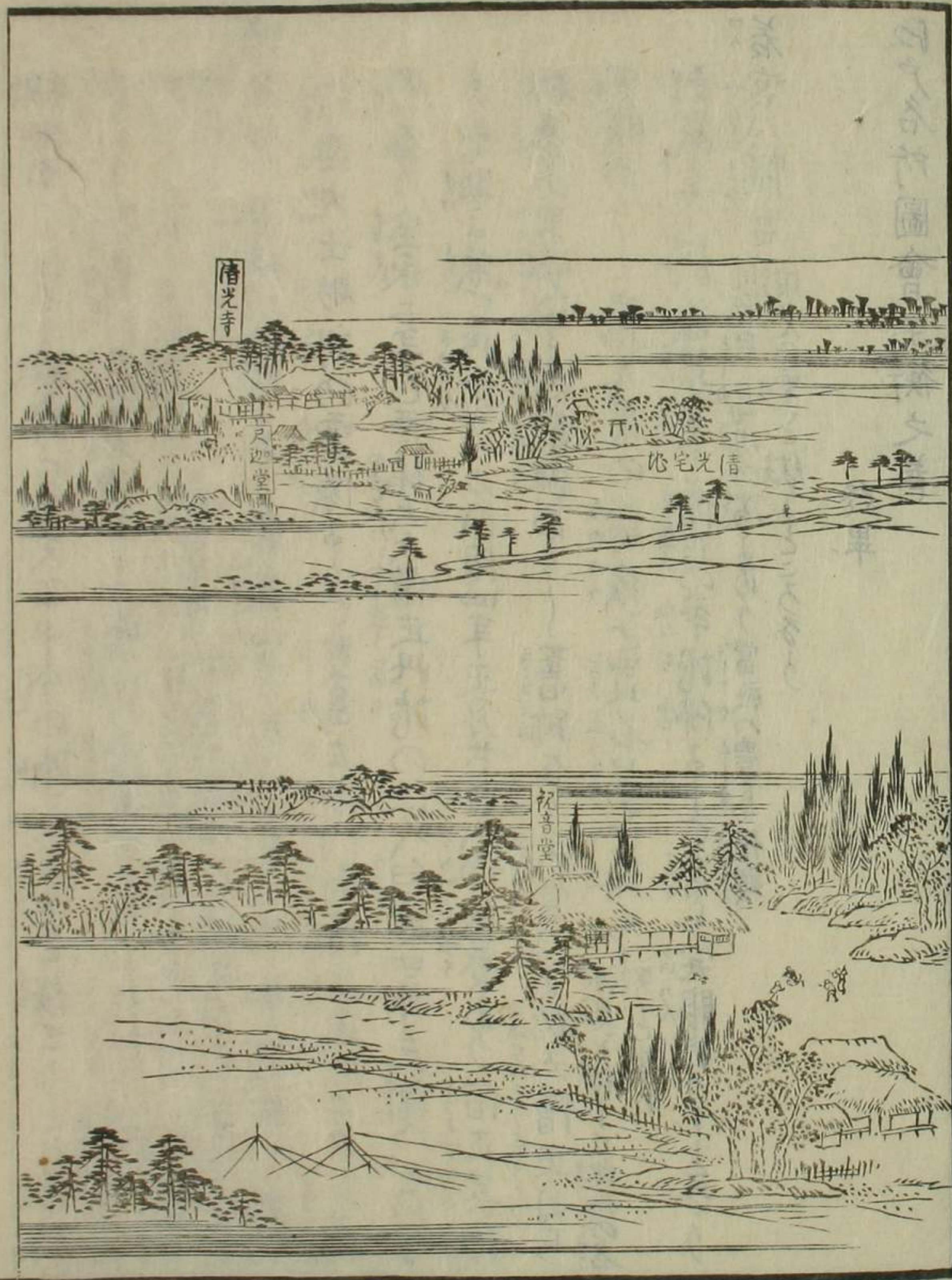
醍醐王山清光寺 豊島村にあり真言宗にて豊嶋権頭清光の元

基あり奉尊不動明王の清光建立あり七佛の隨一なり清光の頼朝
 の家長にて當寺ハ則清光舊館の地ありと云
 釋迦堂 願内子あり是も
 七佛の中あり

豊島を帝康家同権頭清光墳墓 岡野に古松一株あり土民是を
 稱して豊嶋の大松といひり 康家ハ清光の

紀加明神社 清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十猛命大
 屋津姫命 執津姫命 三坐あり

日本 紀神代卷一書曰素戔嗚尊之子號曰五十猛
 命妹大屋津姫命次執津姫命凡此三神亦能分佈
 本種昂奉渡於紀伊國也云云
 社傳云往古豊島氏某王子權現と勸請せし頃彼地の未社よ



紀伊神社
 清光寺
 若宮八幡宮
 豊島川
 地蔵堂

鎮坐ありけりは故あつて天文年中今の地小宮居と移せりと當社ハ
 昔より豊島村の産土神として祭例ハ毎歲九月十八日執行ハ
 紀の初より末は彼地ハ屋司の觀音堂 因所あり奉尊ハ昆首廻轉天の地ありと云り此地も
 後裔ありと云り 觀音堂 昔清光寺の境内にて清光建立あり七佛の中ありと云
 地藏堂 豊嶋川の端あり龜島山専祿院と号し奉尊地藏菩薩ハ
 行基大士彫刻の靈像ありて豊島左衛門尉清光建立あり七佛
 の一あり宝永三年乙酉祐天大僧正此地の住人白倉四郎左衛門といふ
 めの助は依て再建しつゝ四年正月廿七日入佛供養あり僧正其願
 群衆の男女十念授與ありし舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら
 冥眼ありし六拾九素の壽像と置名号と添らる 俗是と稱して地掛の名
 訶羅多山地藏尊是も僧正の奉祀佛として自ら冥眼ありしとあり
 若宮八幡宮 因所あり島川の端あり當社の豊島権頭
 清光の靈と傳ふところあり

終畢

江戸名所圖會玉衡之卷

